

六篠会報



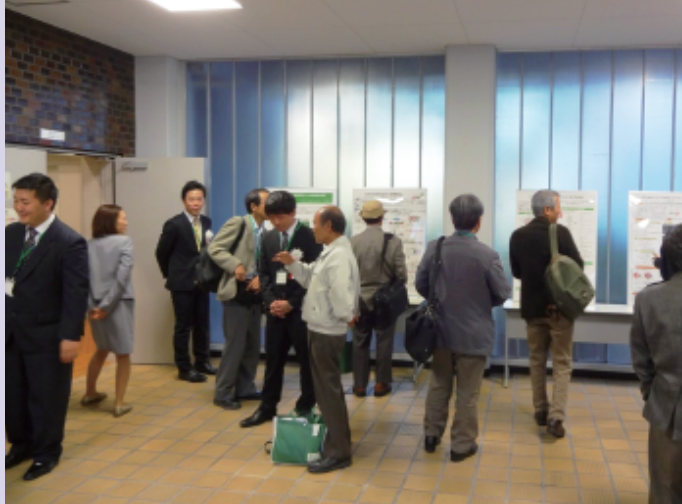
高校生を対象とした農学部オープンキャンパス2014



フィリピンで行われたUPLBアグロバイオサイエンス実用英語演習



高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム
サマーサイエンスキャンプ「植物の力で環境を浄化しよう」



ホームカミングデイにおけるポスター発表

- 六篠会長挨拶 王子 善清……………2
- 農学部近況報告2014 農学研究科長 宮野 隆……………2
- 農学部は今 南森 隆司……………3
- 神戸大学の近況報告 理事・副学長 内田 一徳……………4
- 同窓生は今… 小川 裕二……………5
- 辻 莊一……………6
- 相野 公孝……………7
- 第9回ホームカミングデイ報告 山本 博昭……………8
- ホームカミングデイ記念講演 石井 弘明 准教授……………9
- 学友会だより 神戸大学学友会事務局……………10
- KUCの活動 石賀 暢一……………10
- 支部だより KŌBE 六篠会 県六篠会……………11
- 関東支部 東海支部……………12
- 広島支部 延喜会……………13

- 神戸大学山岳部 日中合同学術登山隊実行委員長 山形 裕士 教授……………14
- 研究室紹介 資源植物生産学教育研究分野……………15
- 生物化学教育研究分野……………16
- 土壌学教育研究分野……………17
- 六篠賞(六篠学術賞・学生賞) ……………18
- ちょっと一休み ……………19
- 佐藤孝先生100歳 高山 敏弘・伊藤 一幸……………20
- 代議員総会報告 庶務報告……………21
- 慶弔関連 退職および着任教員……………23
- 25年度事業報告・決算……………24
- 26年度事業計画・予算……………24
- 同窓会事務局の案内 ……………24
- 編集後記 ……………24

会長挨拶

同窓会って・・・？

六篠会会長 **王子 善清** (兵C12回肥科学)



六篠会会員の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より六篠会の活動、運営に関しまして、何かとご理解、ご協力を賜り誠に有難うございます。心より厚くお礼申し上げます。

毎年のことですが、神戸大学の学位授与式のあとの六篠会主催の農学部卒業祝賀パーティーの祝辞で、私は、新会員に同窓会というのをどのようなものとお考えですか?どんな意味があるとお考えですか?と、問いかけ、次のような見解を述べてまいりました。

「同窓会というのは、いろいろな面で母校を応援し、皆さんを支援する組織です。皆さんや母校の、いわば『サポーター』であり、『パートナー』です。そして、これからの皆さんの長い人生の中で、喜び、あるいは悲しむとき、それを分かち合ってくれる友が、必ずいる、温かく迎えてくれる母校が、いつもある、これが、同窓会の原点です。いうなれば、皆さんの『心のオアシス』なのです。」

と挨拶してまいりました。その上で、年末に届く「六篠会報」は、あなた方と同窓会を結ぶ、絆です。どうぞ、六篠会の活動に理解と協力を賜りたいと呼びかけてまいりました。この呼びかけ

が、若い会員の方々の同窓会への関心を高め、いつか大きな意味があったと思える日が来ることを信じて、同窓会活動に精進しているところです。

そこで、同窓会と母校とのパートナーシップが成立するためには、お互いが、主体性を持ちつつ、何らかの資源を提供し合い、共同の活動を継続的に続け、結果について責任を共有することが必要と言われます。われわれ同窓会は、北浦会長のときに、「六篠賞」を創設して、優秀な学生や農学部の名声を高めた先生方を表彰しております。今年は、さらにそれを充実して、国際的評価の高いジャーナルに論文を発表された先生を表彰できるように改正いたしました。大学側も、同窓会を大学運営のStakeholdersの一員だと認識して、大学運営に当たっていただきたいと考えております。

神戸大学の発展を誰よりも願う六篠会にとって、できる協力は惜しまないつもりですが、大学側には、同窓生も率直な意見を言えるような雰囲気を作っていただきたいと思っています。

今後ともいろいろな面からの応援をお願いいたしますとともに、皆様のご活躍を心より祈念申し上げます。

農学部近況報告2014

大学院農学研究科長・農学部長 **宮野 隆**



六篠会会員の皆さまは、お変わりありませんでしょうか。昨年4月に研究科長を拝命して以来、早いもので1年半が過ぎました。こんなことを言うとお叱りを受けるかも知れませんが、拝命した平成25年4月から、国立大学は「改革加速期間」という期間に突入しており、平成27年度にかけて大幅に大学の機能を強化しなければならない、これが文部科学省から「国立大学改革プラン」として正式に発表されたのが平成25年11月ですから、とんでもない時期に研究科長になってしまったと思っております。昨年は「ミッションの再定義」だの「認証評価（教育）、選択評価（研究）」だのと、いつもになく文部科学省関係の仕事が多いと感じていましたら、そういうことだったので。神戸大学はこれまでの実績が認められ、昨年は「研究大学強化促進事業」に採択され、正式にResearch Universityとしての第一歩を踏み出しましたが、今年は「スーパーグローバル大学事業」には採択されず、皆さまからお叱りを受けているところです。反省すべき点は反省し、今後さらに農学研究科として着実にグローバル化を進めていく所存です。国立大学改革の流れはこればかりに留まらず、神戸大学も次々と大学機能強化の計画を進めつつあります。農学研究科もかかわる新研究科「科学技術イノベーション研究科（仮称）」の設置、平

成28年度からは1学年を4学期にするクォーター制の導入とグローバル教育の充実、また年俸制の導入も計画されています。ここ数年で大きな改革が進むことになりませんが、農学研究科も柔軟に対応し、益々発展するよう方向転換していかねばならないと思います。

このような流れの中にあって、今年は農学研究科にとって良いニュースがありました。加西市にある食資源教育研究センター（旧附属農場）が、国の「教育関係共同利用拠点」に認定されました。食資源教育研究センターは、これまで農学部学生の実習の場として十分機能を果たしてきていますが、センターの教員や事務の方々が努力されて、ここ何年かは神戸大学以外の学生にもセンターでの教育を開放してきました。この努力が認められ、今年は国の教育拠点として認定された訳です。今年からは、食資源教育研究センターで生産された果物やお米が、学生達の手によって一般市民にも販売され始めました。地域連携センターを中心とした篠山市との連携も進んでおり、農学部の学生達が篠山で育てた農産物を販売するといった活動も活発に行われています。今年発足した兵庫県の推進する「農」イノベーションひょうごにも農学研究科は参画し、全面的な協力体制を整えつつあり、地域の拠点としての力も着実につ

けつつあります。

グローバル化の一環として昨年からはじめたフィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）での3週間の英語研修「UPLB実用英語演習/UPLBアグロバイオサイエンス実用英語演習」、今年には土佐先生と笹山先生に引率していただきました。今年には日本学生支援機構からの援助も得ることもでき、順調な発展を見せています。また、大学院の「先端融合科学特論」や「英語スピーチ技術集中トレーニングコース」、学部向け授業「農学への招待」等も外国から講師を招いて、英語での講義を実施しました。うまくいくものも、うまくいかないものもありますが、英語での講義を増やすことによって、学生達が国際的な力を身に付けてくれるものと期待しています。

研究面では、今年も多数の学生や若手の先生方が中心に、学会での発表賞や優秀論文賞を受賞しました。教育面では、大野隆教授が永年の神戸大学での全学共通教育整備等に対する貢献を認められ「兵庫県功労賞（教育功労）」を、宇野知秀准教授が小中高校生のためのプログラムを実施してき

た功績を認められ、日本学術振興会から「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞されました。中屋敷均教授が生物学を目指す若者達向けに講談社現代新書から「生命のからくり」という本を出版され、新聞やネットで取り上げられているのをご存知の方も多いかも知れません。農学研究科の先生方は、今年も様々な分野で活躍されています。

神戸大学農学部は全国の大学の中で獣医学系を除けば、偏差値ランキングでは2～3位の位置にあります。この夏開催した受験生向けのオープンキャンパスでも、1日に2,500名の高校生達が訪れました。少子化の中にあつて、またグローバル化が進む中で、この位置を保てるよう、またさらに発展するよう努力し続けなければならないと感じています。

六篠賞による表彰制度や学生の海外渡航援助は、皆さまのご支援によって支えられています。今後増加すると思われる留学生に対しても、是非とも六総会の皆さまのご支援を仰ぎたいと思っております。今後とも引き続き、神戸大学農学研究科をご支援いただきますようお願いいたします。

農学部は今



六篠会理事(代表) **南森 隆司** (神C6回醗酵生産学博後S59修了 醗酵生産学)
生命機能科学専攻農環境生物学講座 細胞機能制御学教育研究分野 教授・遺伝子実験センター長

私は、現在、神戸大学自然系先端融合研究環に属する遺伝子実験センターに所属しています。この研究環は、農学、理学、工学、海事科学などの分野を融合して形成されています。一方で、農学研究科での教育研究に携わっていることに変わりはありません。農学研究科に所属する食資源教育研究センター（旧農学部付属農場）や食の安全・安心センターなどに加えて、最近では、農学研究科の教員が兼務する組織が増えました。研究環以外にも、研究基盤センター（アイソトープ部門、機器分析部門、極低温部門の3部門からなる）などがあり、学内の研究支援の役割も担っています。農学研究科の教員・学生など研究に携わる者にとってはかかわりの深い施設です。

私の属する、遺伝子実験センターは、学内共同利用施設として、昭和63年、設置され、遺伝子組換え技術の普及・啓発活動を通じて、学内の遺伝子研究の発展を促すと共に、本学における遺伝子組換え実験の拠点として重要な役割を果たしてきました。

その後、当該分野の研究の著しい進展を反映しゲノムプロジェクトなどの急速な進展に伴い、本学における遺伝子研究も遺伝情報の発現制御機構の解明、遺伝子機能の解明、有用遺伝子の利用など、幅広く高度になりました。これに対応する新たな研究体制への整備を図り、平成13年度概算要求において、4研究分野、即ち、遺伝情報解析研究分野、環境遺伝子機能解析研究分野、環境遺伝子機能制御研究分野、遺伝子機能評価研究分野からなる「遺伝子実験センター」への改組が認められ現在に至っています。教職員の構成につきましては、農学系教員4名、理学系教員3名、技術職員1名、その他、数名の非常勤研究員や研究支援推進員が勤務しています。農学系の教員はすべて農学研究科を兼担し、農学研究科院生、農学部学生の教育研究指導に当たっています。

遺伝子実験センターは、「組換えDNA実験技術の普及及び発展を図る」ことを目的の一つとしています（神戸大学自然

科学系先端融合研究環遺伝子実験センター規則第2条抜粋）ので、学内の研究者から依頼されたDNA配列解析などを当センター内で実施し、そのデータを依頼者へ迅速に提供する等々の研究支援業務を実施しています。最近はこのように解析依頼を受注する回数が増加しています。下記の表は、遺伝子実験センターへの利用申請をされている研究者・学生の数並びにDNAシーケンスサンプルの依頼サンプル数の平成24年度から現時点（平成26年度9月）までの推移を表したものです。これを見ていただきますと、遺伝子実験センターの利用者の半数以上が農学研究科の教員・学生が占めていること、また、DNAシーケンス依頼サンプル数のおおむね三分の二が農学研究科からの依頼であることがお分かりいただけると思います。これらの数値を見ましても如何に農学研究科と遺伝子実験センターとは密接な連携関係にあることがお分かりいただけると思います。ちなみに遺伝子実験センターは神戸市バス36系統、神大文理農学部前よりゲートに入り、向かって左から3つ目の建物です。農学部の玄関前のヒマラヤスギの巨木周辺ロータリを農学部から見て左方向に位置し、農学部や理学部あるいは工学部などと隣接した位置に存在します。ホームカミングデー等々で農学研究科に来られる折にはぜひお立ち寄りください。「農学部は今」の原稿執筆にあたり今回は、農学研究科・農学部と密接な関係にある施設として紹介させていただくことにしました。卒業生諸氏の中にも在学中に遺伝子実験センターを利用していただいた方もおられると存じます。

遺伝子実験センターへ利用申請をされている研究者・学生の数並びにDNAシーケンスサンプルの依頼サンプル数の農学部の割合

	遺伝子実験センター利用者数						シーケンスサンプル数	
	全体			農学			全体	農学
	学生	教職員	合計	学生	教職員	合計		
H24	164	103	267	103	37	140	19,712	13,980
H25	162	117	279	107	37	144	16,956	12,252
H26	161	114	275	105	44	149	8,332	5,532



理事・副学長(産官学社会連携・広報担当) 内田 一徳

理事・副学長を拝命して、早1年半が経過しました。最近の神戸大学の近況についてご報告いたします。

まず、大学の機能強化についてです。文科省は、昨年度より教育研究組織の再編成等により、

- ①世界水準の教育研究活動の飛躍的充実
- ②各分野における抜本的機能強化

に取り組む国立大学に対して運営費交付金を重点配分する方針を打ち出しました。昨年度は①に7帝大や筑波大・京都工繊大など、②に一橋大・東京工大・長崎大などが選定され、今年度は①に熊本大・東京芸大、②に金沢大・信州大・鳥取大・山口大・和歌山大などが選定されました。神戸大学は惜しくもこの選抜に残れず、国立大学改革強化推進補助金の選定枠となりました。それでも、今後6年間にわたり年間4～6億円の補充金が交付されます。神戸大学が提案している機能強化策では、本学の将来像として「大学の『知』を社会と協働して活用し、社会変革をリードする新たな価値の創出に挑戦し続ける大学」と位置づけ

- ①イノベーション創出「科学技術イノベーション研究科の設置」
- ②グローバルビジネスリーダー育成「グローバルマスターコースの開設」
- ③グローバル人材育成「学部再編による新学部の設置」

などが提案されています。

次に懸案でしたスーパーグローバル大学事業もグローバル化牽引型に申請をしましたが、トップ型13校(7帝大や筑波大・東京工大・広島大・早稲田・慶応など)とグローバル化牽引型24校(千葉大・岡山大・金沢大・明治・立教・立命館・関学など)の中に残れませんでした。神戸大学と同レベルにある他大学の採択を考えると、上記の機能強化予算獲得失敗と併せて、大きなマイナスであることは否定できませんが、研究大学強化促進事業や上記の補助金を使って、次のグローバル化事業に向けて粛々と準備していくことが重要であると思います。

一方、すでにグローバル人材育成支援事業(人文・社系学部)や世界展開力強化事業には複数学部が採択されており、オックスフォード大学をはじめとする欧州協定大学とのダブルディグリープログラムの推進や平成28年度からは4学期制の導入やグローバル共通教育院の計画なども進められており、大学独自のグローバル化が推進されています。また、JAPIC(日本プロジェクト産業協議会)と連携して、大学教員では本音で講義できない防衛・震災・政治・政策などの「グローバル人材に不可欠な社会基礎学」を産業界・政界・官界トップリーダー

によるリレー講義を、H26後期の隔週土曜日午後実施する予定です。神戸大学1・2年生が中心ですが、附属中等教育学校の高校生にも参加してもらおう予定で、グローバル人材育成の大きな一助になることを期待しています。

そのほか、地域連携を含む産学連携に関しては、ポर्टアイランドの統合研究拠点南側にアネックス棟が建設中であり、GMP準拠パイロットプラントを有する次世代バイオ医薬品製造技術研究組合などが入り、先端医療産業都市構想とマッチした最先端研究が推進されます。また、兵庫県のフードバレー構想に関しては、加西市に建設中の次世代施設園芸モデル団地を中心に農イノベーション協議会等に農学研究科とともに協力しています。知の拠点としての神戸大学と情報の拠点としての神戸新聞社が連携して、地域の活性化に貢献できる事業を展開すべく包括連携協定を締結しました。12月7日には篠山市で連携シンポジウムを開催しました。このほか、H26にはバンドー化学や独立行政法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センターとの連携協定も新たに締結しました。また、兵庫県中小企業との連携を強化する試みとして、11月21日午後に工学研究科やシステム情報学研究科が中心となって、「産to学フォーラム」を実施しました。

男女共同参画推進室関係では、H22から5年間推進してきました女性研究者養成システム改革加速事業が最終年度を迎え、当初の目標であった21名の新規女性教員の採用を完了することができました。さらにH26に女性研究者支援事業(連携型)に申請しており、さらにこれまでのユネスコとの連携実績を基に「ジェンダーと防災減災」をテーマにしてユネスコチェア獲得を目指したいと考えています。懸案でした一時保育施設が眺望館1階に設置されておりますのでご利用ください。

また、同窓会関係では、これまで帝劇ビル地下1階にありました神戸大学東京オフィスを、今年3月にJR有楽町駅前の東京交通会館9階に移転しました。エレベータを降りるとすぐにわかりますので、ぜひ一度お立ち寄りください。さらに、神戸大学基金に関しましては、鶴甲全学共通グラウンドの人工芝化計画が進められています。近々実現できると思いますので、ご期待ください。

教職員と学生、ご父兄や同窓生の方々の全学的協力体制こそが、これからの新しい神戸大学を築く原動力です。結局は、各部署における地道な教育研究に対する努力が実を結ぶものと思われれます。皆様のご協力を強く期待しています。



北興化学工業株式会社
取締役専務執行役員 農薬事業グループ担当
小川 裕二 (神P4回農薬学)

この度、植物防疫学科の同窓であり農薬業界で付き合いの長い柳芳和氏の推薦により伊藤先生から執筆の依頼を受けました。その推薦理由が、卒業後すぐから海外に出ているので面白い経験をしているのではとのことらしいです。お二人のご期待に添えるかわかりませんが卒業から現在までを振り返ってみたいと思います。

卒業を控えた秋に進路をどうするか迷っていた時、たまたま学内の掲示板で海外青年協力隊のポスターに出会いました。募集の中にタンザニアでの害虫駆除（眠り病媒介昆虫のツェツェバエ）があり、子供のころからアフリカに行きたいという漠然とした夢を持っていたこと、安易にサラリーマンになりたくないとの考えから、これこそ求めるものだと思い直ちに応募をしました。

卒業時点では、既に2年間のタンザニアへの派遣が決まっており、10月にタンガニーカ湖畔にある人口3万人程度（当時）のキゴマという町に赴任しました。首都のダラエスサラームからキゴマまでは1,200km、タンザニア鉄道の始発から終着までです。夕刻発の汽車に一人で乗り、キゴマに着いたのは36時間後の朝5時過ぎでした。勤務先のキゴマ州農業局の迎えが来るはずでしたが、駅には見当たらず、1時間ほど途方に暮れていました。駅前をウロウロしていると、たまたまMOA（農業省）の車を見つけ、何とか派遣先の事務所に行くことができました。迎えが来なかった原因は局長の書類の中に協力隊からの要請文書が読まれずに積んであり、なんら受け入れ準備が整っていなかったことによります。このような自分にとって重要ではないこと、また他人事は後回しと言う考え方にはタンザニア滞在中だけでなく以後の海外生活では悩まされました。

現地では、月から金までバイクで15分ほどの事務所に通勤。7時から昼休み無しで午後2時に退社。3時ごろに遅い昼食を取り、夜はドイツ、オランダ、米国からのボランティアや技術専門家または地元の人々との懇親に明け暮れていました。多くの人と付き合い合うことで、着任半年にはスワヒリ語だけではなく英語も不自由なく話せるようになったのは収穫の一つでした。また、キリマンジャロ山、セレンゲティ国立公園などの自然に触れることができたことなど、日本では経験できない楽しみもありました。

空き巣被害やマラリア感染などいろいろな災難も経験しましたが、1975年11月に無事に帰国しました。

帰国後は、海外駐在員を探していた北興化学工業に入社することになり、現在に至っています。

当時、北興化学工業は、他の農薬会社に先駆けて昭和

40年台初頭から、ブラジルでの農薬製造販売会社の設立、その他の中南米では駐在事務所の開設などの海外展開を積極的に行っていました。1977年2月にはコスタリカ国サンホセ市の駐在事務所へ赴任しました。今年のサッカーワールドカップで有名になりましたが、当時、ほとんどの日本人には未知の国でした。しかし、現地は中米のスイスと呼ばれて、治安が良く生活環境は素晴らしい所でした。

仕事の内容は、農薬登録のための試験実施、関係当局との折衝および拮据のための普及対策ならびに販売代理店との販売促進交渉などです。駐在員は所長と私の二名でメキシコ、中米諸国、カリブ諸国およびブラジル以外の南米諸国の面倒を見ていました。ほぼ毎週、月曜日出発、金曜日帰国で各国を訪問するという厳しいものでした。赴任当時スペイン語は殆どできず、英語と併用でなんとか意思疎通をしていましたが、その中で、スペイン語の習得に最も効果があったのが酒の席です。中南米の人達は陽気で酒が好きで、仕事の後は何時も飲み会です。そこでの議論や与太話をスペイン語でやらなくてはならなかったので、お蔭で赴任後一年たたないうちにスペイン語での会話には不自由なくなり、今も問題ありません。

赴任3年後に、治安の悪さで有名なコロンビア国ボゴタ市に一人駐在の新事務所を開設することになり、そこからブラジルを除く南米諸国の面倒を見ることになりました。中南米生活計6年、家族を含めて泥棒被害や交通事故にも合わず無事帰国できたのは今でも幸いと思っています。

1983年からは農薬の海外開発と販売業務に従事して多くの国を訪問し、様々な経験を積むことができたことは貴重な財産となっています。

その後、9年間ファインケミカル事業部門を担当していましたが、今年の3月から農薬事業部門に戻り、国内外の農薬ビジネス全般を担当しております。

振り返ると、色々な地域や各年代で多くの人の助けを受けて過ごしてきました。特に若い時に一緒に苦労した人達は重要な財産であり、仕事を進めるために大きな助けになっています。その中でも、神戸大学の同期や年代が違うOBの人達とは強い仲間意識を持ってお付き合いができています。60歳を過ぎてから、OB会とか個人的な集まりの招集が増えています。できる限り参加いたしますのでお声をお掛け下さい。

最後になりましたが、ご長寿を全うされました鈴木直治先生ならびに今年3月にご逝去されました松中昭一先生のご冥福をお祈り申し上げます。

「小人閑居為不善」?



辻 荘一 (兵Z12回家畜育種学)

平成17年に40年間の神戸大学農学部勤務を終えました。退職後、約10年になります。退職後の余生がこのように長くなるとは予想もせず、その準備もして来ませんでした。退職直後は余暇時間を持て余し、悶々とする日々でした。

その間の暇つぶしの第一はヨーグルト健康法です。私は長年の間、蓄膿症に悩まされ、風邪をひきやすく、感染源となって人様にも迷惑をかけていました。ある時、インターネットの文献検索で、蓄膿症の人の副鼻腔にはL.Sakeiという乳酸菌がないことが報告されていました。乳酸菌を人為的に副鼻腔にイノキュレーションすれば健常人と同じになるのではと思いつきました。そこで、手作り保温箱(40℃)を作り、明治のR1あるいはLGヨーグルト(飲用タイプ)20mlと牛乳1Lを用いて、ヨーグルトを作ります。次にコーヒーフィルターでヨーグルトをろ過し、ギリシャヨーグルトと乳清とに分離します。外出から帰宅後は、この乳清でうがいをするのと共に鼻に乳清を流し込んで鼻洗浄をします。この処置を数日続けると、鼻汁が出なくなり、鼻づまりが完全に解消しました。検査の結果、蓄膿症そのものは治っていませんでしたが、鼻づまりは全くなり、その上、風邪もほとんどひかなくなりました。

第二は野菜作りです。150坪ほどの斜面の庭があり、そこを開墾して畑を作ることとしました。体力のあるうちに斜面の土木作業をしようと、高さ50cm、長さ約5mのコンクリートの擁壁を、十数段作る計画を立てました。畑の幅は60cmほどです。それで、まず、軽トラックを購入し、電動工具をそろえ、合板を買って来て型枠を作ります。次いで、砂利、砂、セメントを購入し、手作業でコンクリートを練り、8年ほどかけて階段状の畑を完成させました。土は赤土の重い粘土質なので、毎年、軽トラ1車分のみも殻を購入し、畑に混ぜ続けると、「ふかふか」の土が出来上がりました。最初、ミカンの苗木を数種類植えましたが、冬を越せずに枯死してしまいました。長持ちしているのはブルーベリーです。わずか6本で、今年は11.5kgの収穫がありました。ブルーベリー・ジャムとギリシャ・ヨーグルトは絶品の組み合わせで、朝食時の楽しみの一つです。次はイチゴです。自家繁殖させたイチゴ苗を毎年植え続けています。紆余曲折を経て、今では普通に露地栽培をしています。イチゴ栽培での問題は、アライグマです。多数のアライグマが近辺に生息しているらしく、簡易な網囲いでは簡単に突破されます。それで、最近ではメッシュの金網で、ミツバチは通れるがアライグマは入れないような即席の小屋を作り、イチゴ栽培をしています。イチゴも10kg程度の収穫があります。その他、スイカも栽培しています。スイカ

もアライグマ対策が大変で、スイカの本体を防獣ネットで布団のように上下から挟んで栽培しています。これで、アライグマにはやられませんし、地上1m程度の高さにネットを張っているの、スイカが雑草に埋もれることなく、順調に成長します。この他に、ブドウ「藤みのり」を植え、棚や雨除け、更にはアライグマ除けも設置し、花が咲くと、フルメットとジベレリンの両ホルモン処理をし、落果防止と種なしブドウの栽培をしています。今の所、期待量を取穫できるところまではいっていませんが、来年にはそろそろ上手く行くと思います。野菜は、キャベツ、白菜、ナス、トマト、キュウリ、トウガン、ピーマン、シシトウ、春菊、小松菜、チンゲン菜、ター菜、壬生菜、ミズナ、ダイコン、ゴボウ、ニンジン、タマネギ、サツマイモ、ナンキンなどを作っています。中でも、タマネギは500株ほど作っています。4月に収穫できる早生のタマネギの味は格別です。生のサラダから、タマネギ・ステーキまで、レシピのバラエティーも広く、実に楽しい野菜です。野菜作りのこだわりは何と言っても無農薬です。当初、葉物野菜は、青虫と夜盗虫にやられ、頻りに農薬を散布しなければ、虫害を防ぐことは出来ませんでした。何とか無農薬栽培をしようと、数年にわたって挑戦した結果、最近になって、私なりの無農薬栽培の形が出来上がってきました。野菜は播種時から、培養ポットを完全にネットで覆い、畑に移植後もネットで覆うようにしています。今の所、ネットの目が粗いのでシジミチョウのような小型の蝶の侵入は完全には防げませんが、ほぼ、満足の行く野菜が作れるようになりました。アライグマ対策も怠りなく、捕獲檻を市から借りて設置し、今年は、アライグマ4頭とハクビシン1頭(捕獲後リリース)を捕らえました。

退職直後、時間を持て余していましたが、今では、手が回らないほど農作業が混んでいることもあります。暇になれば、いろいろと時間を使う術を見出せるものです。健康で畑仕事を続けることができることを感謝して生きています。



我が家の産物

兵庫県立農林水産技術総合センター
農業技術センター病害虫部兼病害虫防除所
部長兼所長 相野 公孝 (神P12回植物病理学)



2002年に六篠会の本部理事（会報担当）になり、六篠会報No.17号からNo.24号まで編集に関わらせていただきました。諸先輩方には無理難題を言ってしまう、自分が今、原稿を書くことになり、深く反省をしています。

私は1981年に農学部（植物防疫学科・植物病理学研究室）を卒業し、兵庫県に採用され、農業総合センター農業試験場病虫部（現在、兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター）に配属が決まりました。農業総合センターは、JR明石駅から北西に徒歩20分の位置で、非常に便利な所がありました。本館は木造2階建てで歴史のある建物で、内部に入るとタイムスリップしたような感じを受けました。本センターは、明治27年（1894年）に農事試験場として創立され、現在120年の歴史があります。ちなみに、今現在所属している病害虫部（当時植医部）が開設されて今年で112年が経過しております。



兵庫県農業総合センター（戦時中に日本館は焼失、1947年に再建築）

学生時代は宮本雄一先生のもとで、ウイルス病学を中心に植物病理学を夜な夜な学んでいました。県においてもウイルスに関する研究ができると思っていましたが、1年間は研修期間で、先輩たちの仕事の補助が中心でした。翌年、農業試験場但馬分場兼和田山病害虫防除所に転任することとなりました。ここでは丹波黒大豆のモザイク病に関する研究を行い、防除所兼務であるため県北部地域の病害関係の発生予察業務も担うこととなりました。5年間の修行後、1987年に農業総合センターが明石市から加西市に移転するのに伴い、現在の地で研究活動を続けることになりました。名称は、中央農業技術センター、農林水産技術総合センターと変わる中で、農作物の病害を研究対象とし、気がつけば33年過ぎてしまいました。

33年間の研究人生の中で、1987年から「微生物殺菌剤」をテーマとし研究を行ってきました。病理学研究室の加藤肇先生や真山滋志先生のご指導のもとトマトやナスの青枯病を防ぐために土壌や植物根から約30,000菌株の細菌を分離し、その

中から有効な細菌2菌株を選択しました。日本で初めてのシュードモナス フルオレッセン剤として農薬登録し、共同研究企業から販売することになりました。この研究により、日本土壤肥料学会奨励賞（1995年）、農林水産技術会議農業技術功労者表彰（2013年）をいただくことになり、また、学位を取得することができました。良い研究テーマに巡り合えて幸運でした。

2006年から2010年までの4年間、農学研究科の連携講座（応用植物学 食糧生産フィールド科学）で客員準教授・教授となり教壇に立たせていただき貴重な経験をさせていただきました。博士課程の学生に生産現場で生じている問題を中心に、実践的な分野を受け持ちました。この4年間に博士課程の社会人学生として岩本豊氏（神P-21、院19）に学位を授与することができました。土佐幸雄先生はじめとして伊藤一幸先生、佐々木満先生には副査となっただき、貴重なアドバイスをいただきました。学位を取得するのは大変ですが、審査する側の大変さも分かりました。

現在は、定年まで3年4か月となってしまいました。実験室に入る時間が少なく、パソコンの前に座る時間が多くなっています。これも、年をとれば仕方がないかと思って諦めています。また、植物防疫全国協議会会長、関西病害虫研究会会長、日本植物病理学会バイオコントロール研究会会長及び日本土壤微生物学会副会長など学会及や研究会等の役員も引き受けることとなり、若干ストレスのある毎日ですが、充実した日々を送っております。今までお世話になった分、ご恩返しのため活動が続けたいと思っています。最後に神戸大学大学院農学研究科・農学部の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念しております。



兵庫県立農林水産技術総合センター（2014年撮影）

第9回ホームカミングデイ報告



六篠会理事(ホームカミングデイ担当) 山本 博昭 (兵A12回農業工学)

9回目を迎えた神戸大学ホームカミングデイが10月25日(土)に開催されました。晴天に恵まれ、野外でのホームカミングデイ市、東北復興支援イベントを含む全日程が予定通り行われました。

午前中10時半から記念式典(大学全体規模)が出光佐三記念六甲台講堂で(司会・アナウンサー朝山くみ氏・平成11年経済学部卒)、国外本学同窓会会長等来賓の方々出席のもと開催されました。

冒頭の挨拶で福田秀樹学長は、国内外での本学近況活動状況を報告され、文部科学省が認める研究重点大学として戦略的イノベーション創造プロジェクトへの積極的取組について邁進して行くことを強調されました。

この後、学友会(各学部同窓会の連合体)会長田中初一氏が挨拶され、在任中の福田学長の業績を称えながら今後も大学運営のため支援していきたい旨を語られました。

また、総務大臣高石早苗氏(本学経営学部卒)からの祝電も司会者から披露されました。

次に、佐々木謙二氏(昭和36年経済学部卒、日本発条株式会社相談役・横浜商工会議所会頭)の講演「神戸と横浜と私」がありました。六篠会会員の皆様にはあまり聞きなれない会社だと思われそうですが、通称「NHKスプリング」と言われ国内バネ製造の最大手で、日本の自動車産業の発展と共に国際的にも急成長を遂げた会社です。講演の内容は、4回生になっても就職活動を全くしていなかった本人にゼミ担当教授が心配し、推薦するから行って来いと言われ出向いたら創業者が面接官で、その場で内諾の通知をもらい戸惑ったこと。就職後はまだまだ発展途上にあった自動車各社と共に歩みながら自社の発展を目指した等人生を顧みる話、最後に横浜(横浜商工会議所会頭として)は負けないが、関西の広域連携、大都市(大阪・神戸・京都)が連携すれば巨大な力になるのではないかと提言もありました。

最後に、邦楽部の学生さんによる和楽器演奏「涙そうそう」、「雲井六段」、「時空を超えて」の3曲(奏者計7名)が演奏され、副学長内田一徳氏(前農学部長)の閉会の辞を持って幕を閉じました。さらに12時頃から約1時間、同じ六甲台学舎アカデミア館1階食堂においてティー・パーティーが開かれました。

午後には各学部に分かれた催しが開催されましたが農学部の催しについてのみ報告します。

農学部学舎(C101教室)で午後1時30分から開始、最初に農学研究科長(農学部長)宮野隆先生による農学部の現状・活動状況の報告がありました。神戸大学は文部科学省がいうスーパーグローバル大学の中で本年度は名前が削除されたが、決して衰退している訳ではなく特に農学部の評価は国内及び大学内でも高まっているというお話で心強く思いました。

例年ですと、この次に我々農学部同窓会(六篠会)が設置した「六篠会賞授与式」が行われるのですが、誠に残念なことに本年度は該当者なく中止しました。この授賞式は、農学部所属する先生方を対象にし、毎年開催が定着したホームカミングデイで行うものとしたもので、大学院生を含む学生諸氏に

対した授賞式は3月の修了式・卒業式にて行い本年もすでに実施済みです。昨年は先生方対象に6名もの受賞者がありました。農学部発展のためにも来年は多くの受賞者が出ることを期待し切望してやみません。

この後、特別講演「樹上の世界を垣間見る—林冠生態学への招待—」として、石井弘明准教授(資源生命科学専攻応用植物学講座)の講演がありました。実際に高樹へ登る装備着で演台に立たれた先生は、樹登りの方法ノウハウを紹介された後「世界一樹高の高いセコイアメスギは地上の根からどうやって100mもの梢の葉まで水分を輸送しているのか?樹上での調査の結果梢の葉では露や霧などの空中水分を葉から吸収して貯水する機能が発達している」等、すでに本年5月に科学誌Scienceに掲載された内容を紹介され、とても面白かったです。

続いて学生講演として3名の方による講演がありました。それらの講演者氏名と演題は以下の通りです。

- *久野正貴氏(大学院修士2回生)「植物工場における白花蛇舌草の栽培環境制御技術の開発」
- *井上千鶴氏(大学院修士2回生)「種が落ちないイネはどのように誕生したのか?」
- *丸谷曜子氏(大学院博士3回生)「植物が猛暑を乗り切る秘訣—光の存在が植物の命運をわける?!—」

この他にも会場入口前において、計6名の大学院博士・修士課程学生さんによるポスター発表が並行して行われ、学生諸氏の熱心な研究態度とその成果を垣間見ることが出来ました。

本年も昼食時には退職された先生方の懇談会が併設しており、十数名の懐かしい先生方も参加されていました。17時頃から始まった懇親会は、内田一徳副学長の挨拶、王子善清六篠会会長の乾杯の音頭で始まり19時頃に賑やかに幕を閉じました。

この催しは、毎年10月最後の土曜日に開かれています(おそらく来年も)。案内状が特定年度の卒業生にしか届きませんが神戸大に縁のある方はどなたでも参加できます。8月頃になると神戸大学のホームページに案内が記載されますので同期生など親しい仲間をお誘いの上多数参加下さることを期待します。



懇親会風景

ホームカミングデイ記念講演

樹上の世界を垣間見る

-林冠生態学への招待-

資源生命科学専攻応用植物学講座
 森林資源学教育研究分野
 准教授 石井 弘明



研究においても、ビジネスにおいても、視点を変えて物事を見ることは、しばしば新たな発見につながります。今回のホームカミングデイ記念講演では、これまで地上からしか観察できなかった巨大な樹木に登って調査を行ったことによって得られた2つの発見を紹介しました。

鹿児島県の屋久島は海拔0mから1,900mまで、様々な植物群落がみられる生物多様性の宝庫として世界自然遺産に登録されています。縄文杉をはじめとする屋久スギは、海拔1,000m付近に分布しており、樹齢1,000年を超える巨木もあります。これまで屋久スギの森で行われた植生調査では、24種類の本木植物が確認され、多様な植物群落を構成していることが明らかになっています。一方、屋久スギの樹上では、長年降り積もった落ち葉が土となり、そこには多くの着生植物が根付いています。我々が樹上に登って調査を行ったところ、地上では見つからなかった様々な植物種を発見しました。樹上にはヤクシマシャクナゲやアクシバモドキなど、屋久島の固有種を含む計15種の本木植物が着生していました。調査を行った林分は、江戸時代に一度伐採された場所で、ほとんどのスギは伐採後に更新した樹齢200年程度の木です。これらの若い木には着生植物はほとんど見られませんでした。当時、樹形が悪いため木材として使えないと判断されて残された樹齢1,000年以上の木が、着生植物「避難場所」となったのです。もしも江戸時代に全ての木を伐採していたら、この林分の生物多様性は著しく低下していたでしょう。これは、現代の林業にも適用することができます。すべての樹木を皆伐せずに、一部を残すことによって着生植物や土壌の共生菌などの「生物的遺産」が次世代の森林に受け継がれ、生物多様性を維持することができます。

世界一高い樹木にも登って調査を行いました。現在確認されている世界一高い木は、米国カリフォルニア州の北西海岸に分布するセコイアメスギで、最大個体は115.5mです。植物



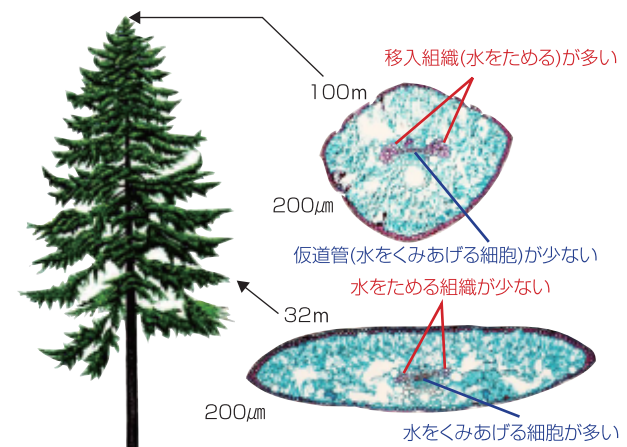
樹齢1,000年を超える屋久スギの森で木に登る演者。

は光合成に必要な二酸化炭素を葉の裏側にある小さな穴（気孔）から取り入れます。その際に空気が乾燥していると、大量の水分が蒸散によって失われてしまいます。巨大な樹木では、梢端部ほど日あたりがよく光合成に適している一方で、葉温が上昇し、空気が乾燥しているため水分損失が多くなってしまいます。また、樹高が高くなるほど根からの水の輸送距離が長くなり、加えて重力による負荷が加わるため、高い樹木の梢端部は常に水不足の状態にあります。セコイアのような巨大な木は、どうやって水不足を克服し梢端の葉に水分を供給しているのでしょうか？木に登って採取した葉を調べた結果、セコイアの梢端の葉は、下方の葉と比べて厚く、小さい形態を示しました。これは、表面積：体積比を小さくすることで葉内からの水分消失を抑える順化反応であると考えられます。さらに、梢端の葉では朝露や霧などの空中の水分を葉の表面から吸収し、肉厚な葉の内部に貯水する機能が発達していることがわかりました（図）。カリフォルニアの太平洋岸では、海霧が頻繁に発生します。セコイアの梢端部の葉は、このような空中水分を利用することで、根からの長距離水分輸送に頼ることなく、100mもの高さで光合成を行うことができます。

屋久島での研究成果はPlant Ecology誌に掲載されました（Ishii et al. 2010）。また、セコイアの成果はFunctional Ecology誌に掲載され（Ishii et al. 2014）、Science誌のニュース記事としても取り上げられました。屋久スギの樹上の生物多様性も、セコイアの梢端の葉の貯水機能も、地上の生き物である人間にとっては想像しがたいことですが、樹上に登って観察の視点を変えたことによって発見することができました。樹上での研究は、ひとつ動作を間違えると落下しかねない危険な作業です。これからも文字通り「命がけ」で、世界が驚くような研究成果をあげていきたいと思えます。

参考文献

“How do redwoods grow so tall?” *Science* May, 2014
<http://news.sciencemag.org/plants-animals/2014/05/scienceshot-how-do-redwoods-grow-so-tall>



樹高世界一のセコイアメスギの樹冠上部の葉では、樹冠下部の葉と比べて、根から水をくみ上げる仮道管が少なく、水分を貯める移入組織が多い。

神戸大学学友会事務局

◎役員会の開催

平成26年度第1回学友会常任幹事会(平成26年5月26日、神戸大学本部特別会議室)、同第1回幹事会(平成26年6月16日、神戸大学本部大会議室)を開催し、

- ①平成25年度事業報告(案)
- ②平成25年度収支決算(案)並びに会計監査報告
について協議が行われ、原案どおり承認されました。

◎構成同窓会

文学部同窓会「文窓会」、国際文化学部同窓会「翔鶴会」、教育学部・発達科学部同窓会「紫陽会」、経済・経営・法学部同窓会「一般社団法人凌霜会」、理学部同窓会「くさの会」、医学部医学科同窓会「新緑会」、医学部保健学科同窓会「就進会」、工学部同窓会「一般社団法人神戸大学工学振興会」、農学部同窓会「六篠会」、海事学部同窓会「海神会」

◎平成26年度の主な事業計画

上記神戸大学各学部同窓会と相互に補完し、柔軟な運営を目指す連合体として、母校神戸大学の発展を支援するため次の事業を行います。

1. 各同窓会の諸活動を支援する事業について
 - ・入学手続き時の同窓会へ勧誘活動支援
 - ・学友会ホームページの開設更新等

2. 学友会支部の諸活動を支援する事業について

- ・大学が発行した広報誌等及び各同窓会発行の会報誌を取りまとめて学友会支部あてに送付する。

3. 教育研究活動を支援する事業について

- ・神戸大学基金への寄附
- ・大学が開設している東京オフィスの紹介記事を同窓会の会報誌やホームページに掲載する。

4. その他の事業について

- ・神戸大学基金推進に協力するため、各同窓会の会報誌発送時に基金趣意書等を同封する。
- ・ホームカミングデイ開催にあたり、学友会幹事の出席、各学部行事は当該同窓会との共催とするなど積極的に協力する。
- ・神戸大学広報誌「風」の編集のため、学友会編集委員会を2回開催し協力する。
- ・神戸大学卒業生ネットワーク普及に協力して、案内チラシを各同窓会の会報誌発送時に同封する。

◎六篠会からの学友会幹事就任者

中村 直彦副会長(常任幹事)、松井 功副会長(幹事)、武 正興副会長(幹事)
なお、監査担当役員を選出があり、投票の結果、「中村直彦副会長」が選出されました。

KUCの活動

六篠会副会長(KUC担当) **石賀 暢一** (神C1回醜酵生産学)

KUC(神戸大学クラブ)は神戸大学の卒業生、教職員とその同伴者のみが利用できる専用クラブとして、会員のクラブライフ向上を目指して講演会、見学会、同好会(ゴルフ、囲碁、英雄を語る会、旅行)を実施しています。

KUC(神戸大学クラブ)は各学部同窓会から選任された運営委員によって運営されています。六篠会から運営委員として坂井 永利(兵A12)、中村 直彦(神Z1)、石賀 暢一(神C1)の3名が担当しています。

H26年度の活動は次の通りです。

- (1) 定例講演会の開催(年3回)
 - 1回目は8月28日 神戸大学経済経営研究所 教授 佐藤隆広氏に「モディ政権下の日印経済関係の展望」と題して講演をいただきました。
 - 2回目は11月6日 大阪湾水先区水先人 山野 勝三氏に「水先案内人(PIROT)とは」と題して講演をしていただきます。
 - 3回目は2月に予定
- (2) 見学会の開催(年1回)
 - 5月22日に篠山城大書院の見学会を楽しみました。

(3) KUC同好会の開催状況

- ①KUCゴルフクラブ(年4回 今年6、8、11、3月の開催で毎回30名前後の参加)
- ②英雄を語る会(原則として奇数月の第2火曜日に開催)
- ③囲碁同好会(原則として毎月第3月曜日に「海洋会」で開催で、毎回10名~20名の参加)
- ④旅行同好会(年1回)

(4) 広報活動

神戸大学のホームページに神戸大学クラブ(KUC)の各種活動を掲載しています。

KUCへの入会希望や講演会等の行事や同好会に参加希望される場合は運営委員または事務所(078-851-3433)へご連絡をお願いします。このたび事情によりKUCの事務所を移転することになりました。場所は神戸大学のお膝元とも言える阪急六甲駅山側にある中華料理「六甲苑」です。六甲苑は2階が50席、4階には60名までできる部屋があり間仕切りすれば、同窓会、打合せ、会議、宴会等幅広く利用できます。

なお、クラブ事務所は六甲苑東隣に間借りしています。

支部だより

KOBE六篠会

会長 **安原 潤** (神A15回保蔵加工学)



本年11月より会長に就任いたしました安原潤です。KOBE六篠会の現況を会員3年目(平成23年卒)になる加山絵理(栄養代謝学)さんに紹介させていただきます。

KOBE六篠会は、兵庫農科大学、兵庫県立農業短期大学及び神戸大学農学部を卒業し、神戸市に勤務する者を会員として、昭和59年に結成されました。現在は、会員146名(現職会員80名、OB会員59名、名誉会員7名)を数えています。

会員の採用区分は教職、農業、化学、衛生監視(農芸化学、畜産)から一般行政まで幅広く、また勤務先も小・中学校(教員)、環境局(廃棄物や環境保全の業務)、保健所(食品衛生・環境衛生・動物衛生の業務)、産業振興局(農・水産・畜産の農政振興の業務)、建設局(道路、下水道、公園などの土木関係の業務)、水道局(水質検査などの業務)、区役所(まちづくりなどの業務)など多岐にわたっています。市民に身近な業務として安全で安心なまち「こうべ」の実現に向けて、それぞれの職場・立場で会員一丸となって取り組んでいます。

私は、平成24年に衛生監視職で採用され、現在は環境局環境保全指導課に勤務しています。公害(大気汚染、水質汚濁など)の原因となりうる施設(たとえばボイラーなど)を設置する際に、法令に基づき提出される届出書の内容を審査し、周辺環境へ悪い影響がないか、規制基準を満たしているかなどを確認することにより、公害の発生を未然に防ぐという業務を行っております。また、公害に悩む市民の方から受けた苦情相

談に対し、現地調査を行い、問題点を改善するよう事業者への指導を行っています。典型7公害(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)は一時に比べると状況は大きく改善されてきましたが、まだまだ深刻なケースもあり、また新しいジャンルの苦情が増えており、行政として、どのように対応していくべきなのか日々悩みながら公害のない神戸の街を目指して、頑張っています。

なお、本会の活動は、年1回の総会・懇親会の開催と名簿の発行が中心となっています。総会・懇親会では、農学部長や六篠会会長等のご出席をいただき、大学の近況を伺ったり、思い出話を花を咲かせたり、会員間の情報交換を進めたりと親睦を深める良い機会となっています。

今後とも、「同窓生意識」をより一層高めていく努力を続けていきたいと考えています。



県六篠会

会長 **三浦 恒夫** (神A9回作物育種学)

県六篠会は、兵庫県庁に勤務する同窓生の親睦組織として、昭和56年から活動を続けています。農政分野の専門職を中心に、現在216名(現職132名、OB・OG84名)の会員がいます。毎年1回の総会と懇親会が主な行事で、今年も新会員の歓迎を兼ねて7月9日(土)に神戸ポートピアホテルにおいて開催しました。約50名の会員が参加し、来賓として、大学から内田一徳副学長、宮野隆農学研究科長、六篠会本部から辻莊一会长代理にもご臨席いただきました。懇親会では、内田先生、宮野先生から神戸大学と農学部の近況について、また辻先生からは農学部のこれまでの歩みについて、それぞれご紹介いただきました。先生方を囲み、先輩、後輩と一緒に学生時代を懐かしく思い出しながら、楽しいひと時を過ごすことができました。

ところで、兵庫県では、農林水産業の競争力強化に向けて、農林水産分野での新技術・新商品等の開発を支援する異業種交流プラットフォーム「『農』イノベーションひょうご」を設立し

ました。また、高度な環境制御技術を駆使して高品質な農産物の周年安定生産を行う大規模施設園芸団地を構築すべく、モデル団地の整備事業に着手しました。いずれのプロジェクトも、神戸大学の参画を得て、内田先生をはじめ多くの先生方にご協力いただき進めているところです。今後とも母校と兵庫県との連携がより一層拡大していくよう、卒業生として様々な形で交流を進めていこうと思っています。



関東支部

支部長 **加納 健三** (兵A16回醸酵生産学)



六篠会関東支部は、有楽町・帝劇ビルB2にある神戸大学東京六甲クラブを拠点に活動しています。当クラブで催されている木曜会・特別火曜会の講演会、若手の会、音楽会、各種サークル活動等に参加したり関わったりしています。

六篠会関東支部総会は、10月3日本部から辻副会長ご出席のもと東京六甲クラブで開催されました。副会長から、大学人気度(2位)と学部偏差値アップなどの近況についてお話いただきました。講演は、花王(株)ヘルスケア研究所の早瀬 基氏(神C19回)から「商品開発のポイント～化粧品を例にとりて」と題して、肌の老化に関する研究の興味深い話がありました。ケアの仕方でもかなり若さを維持できるなど、是非女性に聞いていただきたい話でした。今回の参加者は25名でしたが、初参加者も含め懇親会は大いに盛り上がりしました。

農学部担当の木曜会が2015年3月26日に開催されます。

神戸大学名誉教授新家龍氏(兵C5)に「お酒の効用」と題して講演していただきます。お酒は適度に飲めば「百薬の長」といわれます。皆さん是非この機会に参加してください。

関東支部も徐々に若手の方が参加して頂けるようになりました。これからも参加しやすい会に努めますので、関東在住の方の参加と本部のご協力程、よろしく願いいたします。



東海支部

支部長 **長谷川 信弘** (兵C16回農産製造学)



本年、7～10月は毎月の様に台風に遭遇し、名古屋周辺あるいは名古屋市営地下鉄では、大きな被害を受けました。木曽御岳では、火山噴火があり、多数の被害者が出ました。こんな悲惨な事件だけでは無く、H39(2027)年開通予定・リニア新幹線の計画が認可されたことや、名城大学・名古屋大学ではノーベル賞受賞と言う栄誉が発表されました。名城大学・名古屋大学とも、神戸大学出身の先生方も多く、ノーベル賞を喜び、讃えておられました。

今年の第14回支部総会は、H26年11月9日に開催され、東海支部会員約20名が参加され、六篠会本部より、元会長で現在顧問の新家先生をお招きし、先生には、本部を代表しての挨拶と、日本酒に関する講演をお願いしました。「お酒の効用」では、適量飲酒すると、血管が膨らみ血圧が低下する事により、入浴と同じ効果が得られる。そこで「百薬の長」と言われ、J-カーブが良く知られているそうです。人では、新アルコール代謝系が発現する事が知られており、日本酒・酒粕にも機能性物質が含まれている。従って、日本人は適量飲酒で、楽しい人生を送って貰いたい、との講演でした。知多半島の6

酒蔵では、日本酒の需要拡大を目指し、新しい酒を開発するという意気込みを見せています。

また、当日は東海支部初代支部長を務めた正井博之氏(兵2C)が、久しぶりに参加され、お元気な姿を拝見しました。六篠会本部・東海支部の元会長・支部長が列席された事により、本部および東海支部の結成当時のお話を伺う事が出来ました。年々高齢化が進む中、東海支部も若返りを図りたいと考えています。東海地方に居住する、農学部卒業生の参加をお願いいたします。



広島支部

支部長 **番匠 宏行** (兵Z13回家畜繁殖学)



六篠会広島県支部は2008年に設立し、少人数ながらも毎年1回総会を継続しています。初回と2回目は広島市内のホテルで、3回目は尾道市（燻りの館：北浦会長参加）で、4回目は東広島市（西条酒まつりに便乗：能宗副会長参加）で、5回目は福山市鞆町で、昨年の6回目は広島市内（広島菓子博2013に便乗：王子会長参加）のホテルで総会を開催しました。

今年度は夏の役員会で11月16日（日）に「温故知新・瀬戸内しまのわ2014総会」と銘うって呉市から江田島市のルートで7回目の総会を行うことを決めました。当日は、11時10分にJR呉駅に集合です。六篠会からは辻副会長に参加頂きました。呉中央棧橋から対岸の江田島に渡る約30分のフェリーの中で総会の行事を手早く済ませ、引き続き辻副会長から今日的な大学情報を報告して頂きました。最近の農学部への構成や生徒数、人気ランキング等、また学会への論文発表、研究発表が最近増加していること、フィリピン、ベトナムの大学等と学術交流を始めていること等をお話いただきました。

フェリーを降りて、直ぐに路線バスで江田島町内の昼食会場「竹乃や」へ移り、1時間足らずの懇親会を開きました。13時から「海上自衛隊・第一術科学校（旧海軍兵学校）」の見学に参加しました。ガイドに引率され約1時間半。教育参考館は大戦に関わった兵隊さんの写真や資料（これは家族にあて

た最後の手紙が多く、当時の悲惨な状況が良く判る）、使われた施設や当時の生活用品、戦争、戦況に関する文書等、膨大な資料がきれいに展示されています。見学の最後に、明治時代に造られた煉瓦作りの巨大な現幹部候補生学校庁舎（旧海軍兵学校生徒館）の前で集合写真を撮りました。その後は呉中央棧橋に戻り、「てつものくじら館」（海上自衛隊呉史料館）を見学して、長い1日の行事を終え流会しました。

辻副会長には遠路からのご来広にも関わらず、最後まで同行していただき、誠に有り難うございました。



延喜会

「酎酒」による酒類審査の思いで

代表 新家 龍 (六篠会顧問、兵C5回醸造学)



従来、各酒造メーカーが製造したお酒の良否を決めるのは、一般にそのメーカーに専属の技術者がいて良否を判断し、それぞれ等級を決定し、商品として販売市場に出荷されていた時代が続いていました。

この方法の欠陥を言え、自社の商品と他社の商品のレベルの比較ができないこととされてきました。つまり、自社製の商品が最高級品であると思うのは、人情であることから、国税庁では課税対象となる商品の統一性を考慮し、各管区毎に「酒類鑑定官」を置き、全国的により統一性の高い審査基準をもとめたものと思われま。

私は、平成元年から10年ばかり大阪国税局の審査に参加しましたが、最初自分の好みに合うお酒の味は分かりましたが、正直言って、所謂客観的な審査が「どういものか」については自信がなく、先輩鑑定官に種々教えていただき、漸くその任にあたることのできた次第です。

要するに、「酎酒」に対するソフトが私の頭脳の中にはなく、感覚が定まっていなかったと言えます。回数を重ねるにしたがって、漸く「酎酒」のコツが分かり始めたところに、当時竹下内閣によって3%消費税が導入されることになり、この酒類審査制度は廃止されることになりました。

今から当時のことを思いだしますと、自分の審査した結果が実際の評価にどのように影響していたかが大変気にかかるころですが、この制度はよくできており、確か7人または11人の審査員が一組になっていて、そのうちの4人または7人以上がOKを出さないと認められないことになっていました。極端にいえば、一人間違っても問題にはならないと言われて、安心したことを覚えています。

通常の審査会は午前10時に始まり、12時頃に終わるのですが、その間審査する資料は、200点位で最高400点のこともありました。このような多数の資料の場合は、舌や口の中の感覚が鈍り、正確な審査が出来なくなる時があり、途中で「おかし」、「たまご」などを食べて回復させることもありました。

現在は、以前のように、各メーカーで審査をして特撰、上撰などと順位をきめて市販されており、価額もそれぞれ異なります。どのメーカーのお酒が一番おいしいかというのは難問で、呑む人の好みと趣味に応じて最もふさわしいお酒を選ぶしかないというのが結論のようです。

『お酒と健康』が良く話題に上りますが、これも人によって差があり、現在は、「少量有益論」が一般的であると思っております。

創部100周年を迎える神戸大学山岳部

日中合同学術登山隊実行委員長 **山形 裕士** (神C5回生物化学)
生命機能科学専攻応用生命化学講座生物化学教育研究分野 教授

私は大学入学後すぐに山岳部に入部し、講義初日は新人山行で山の中にいました。年間100日近くを山で過ごしたので、農学部というより山岳部出身です。私の額から前頭部にかけて縦に細長く10cmほど髪の毛の生えない傷跡があります。3年生の時に槍ヶ岳北鎌尾根の岩稜を登攀中に落石を受け頭蓋骨が割れた時の名残です。大量出血と意識不明でダメかもしれないと言われながらヘリコプターで救出されましたが、その後何とか後遺症もなく(?)今日まで生き長らえています。あの時、丸3日間かけて救助していただいた山岳部OBや救助隊の皆様のご恩は忘れられません。新聞・テレビでも報道され、現地の病院にかけつけていただいた先生方や友人にもご迷惑・ご心配をおかけしました。事故後、山から少し距離を置いて勉学に励むようになった4年生の大学院入試の面接では学科の先生方に「君、頭に石が当たってからちょっとは賢くなったのかね」と言われました。今、当時の恩返しのつもりで山岳部のお世話をさせていただいております。

神戸大学は今年創立112年になりますが、神戸高商時代初期に誕生した十程のクラブは相次いで創部100周年を迎えています。我が国における近代登山発祥の地である六甲山をホームゲレンデとする山岳部も来年2015年に創部100周年を迎え、これを記念して海外遠征、山小屋の改修、記念誌の発行などを計画しています。神戸大学山岳部とそのOB会である山岳会の歴史を振り返ると一貫して「未知への挑戦」を旗印としてきました。1958年南米パタゴニア・アレナレス峰(3,437m)初登頂以来、1976年シェルピカンリ峰(7,380m)、1986年クーラカンリ峰(7,554m)の二つの七千m峰を含む6つの未踏峰の初登頂を行うなど、探検的登山を途絶えることなく続けて今日に至っています。

サイエンスでは重要な発見・発明といったバイオニアワークが高く評価されますが、同じように登山においても未踏峰の初登頂や、より高く、より困難な山を目指すバイオニアワークに高い価値があります。誰も見たことのない風景を眺め、誰も歩いたことのない氷河に足跡を残し、誰も触れたことのない岩をよじ登り、誰も踏んだことのない頂きを極める喜びは何にも増して大きく、その体験は人の一生を変えてしまうほどです。そのような行為は一つの文化活動であり、神戸大学山岳部の未知への挑戦は神戸大学の文化の一つを創造することに繋がります。さらにこのような活動が若者に希望と勇気を与え、チャレンジ精神を喚起することが期待できます。

21世紀に時代が移り、もはや世界には登るべき未踏峰などなくなったとして、先鋭的な登山はより困難なバリエーションルートに向かい、派手な冒険的登山スタイルが注目を集めるようになってきました。しかし、チベットには未だに地理的に未知の空白地域が存在し無数の六千m未踏峰が残されています。神戸大学は秘境の地、カンリガルボ山群に二度学術登山隊を派遣しました。2003年にはルオニイ峰(6,882m、山群の最高峰)に挑戦しましたが悪天候に阻まれ5,900mにて敗退しました。2009年には中国地質大学武漢校と合同でついにロブチン峰(6,805m)の初登頂に成功しました。これは六千m峰が47座以

上あるカンリガルボ山群において世界初の快挙としてマスコミにも大きく取り上げられました。全国的に大学山岳部が衰退している中、神戸大学が唯一この地域に入域し初登頂に成功できたのは平井一正工学部名誉教授(前山岳会長、前山岳部長)はじめ山岳会員と部員の山への情熱と努力の賜物であり、これまで長年に亘り中国と友好関係を築いてきた成果です。また、学長はじめ神戸大学関係者の皆様、卒業生、学生さん達の支援のお陰です。改めて御礼申し上げます。

そして、来年2015年に神戸大学山岳部・山岳会は上述の創部100周年記念事業として、再び日中合同チベット学術登山隊を派遣します。当初カンリガルボ山群の未踏峰を目標に計画を立てましたが中国の国内事情により目標をニンチェンタンラ(念青唐古拉)山群の未踏の六千m峰に変更し11月には偵察隊を派遣しました。ニンチェンタンラ山群はラサ東北の湖ナムツォの南側、約200kmにわたる長大な山群です。多くの未踏峰がありますが山名も定かでなく、写真・資料も限られています。

[日中合同学術登山計画概要と募金のお願い]

1. 隊の名称：神戸大学・中国地質大学(武漢)合同チベット学術登山隊
2. 目的：ニンチェンタンラ山脈の未踏峰(六千m峰)初登頂と周辺地域の地質学学術調査および登山・学術調査を通じた日中大学友好交流
3. 期間：2015年10月初旬～12月中旬 約50日間
4. 隊の構成：総隊長・登攀隊長、日中約10名計約20名の隊員、他に学術隊
5. 予算：本隊1,300万円、偵察隊550万円、計1,850万円
6. 募金要領

誠に心苦しいことですが卒業生の皆様方のお力添えを賜りたくお願い申し上げます。皆様のご協力によってこの計画を成功させることができればさらに意義深いものになると存じます。

一口5,000円(できましたら2口以上で)、同封の郵便払込取扱票にてお振込ください。(手数料不要、ご芳名、卒業年をご記入ください。)ご協力頂きました方には写真などを謹呈させていただきます。



チベット最大の氷河、拉古(ラグー)氷河を背景に

研究室紹介

資源生命科学専攻応用植物学講座
資源植物生産学教育研究分野

教授 三十尾 修司
准教授 畠中 知子
助教 深山 浩

資源植物生産学教育研究分野は、兵庫農科大学開学当初から設置された作物学研究室にルーツを持つ農学の中でも最も基本的な学問分野の一つです。現在は教授1名、准教授1名、助教1名、博士課程後期課程2名、博士課程前期課程7名、学部生10名の合計22名で構成されています。

本分野は植物生理学、組織学、細胞分子生理学などを基盤として、作物生産に関わる代謝機構の解明と環境ストレスに対する耐性向上、作物への新規機能の付与などを研究の目標としています。以下にいくつかの研究の概要を説明いたします。

◆イネの耐塩性向上に関する研究

イネは多くの作物と比較して耐塩性が弱いことが知られています。ところが世界のイネ生産現場（特に南アジアや東南アジア）では、海水が浸透するような田畝での稲作が余儀なくされている地域が多く、イネの耐塩性は世界的に重要な課題です。わが国でも、東日本大震災による津波で多くの田が海水につき、栽培が困難となっていることは耳新しいことと思います。そこで、新たな耐塩性システムを着実に育成するにはどうしたら良いかを検討しています。耐塩性は多くの量的遺伝子座によって支配されているので耐塩性システムとの交配によって選抜しようとしても形質が分離して固定しにくい農業形質です。そこで、耐塩性システムとの雑種から薬培養によって半数体を形成し、さらに倍加半数体とすることによって遺伝的に固定された系統群から優良系統を選抜する方法を開発しようとしています。正確な耐塩性検定法の開発や耐塩性の生理的機構の解明が研究テーマとなっています。

◆油料作物の脂質合成能の強化に関する研究

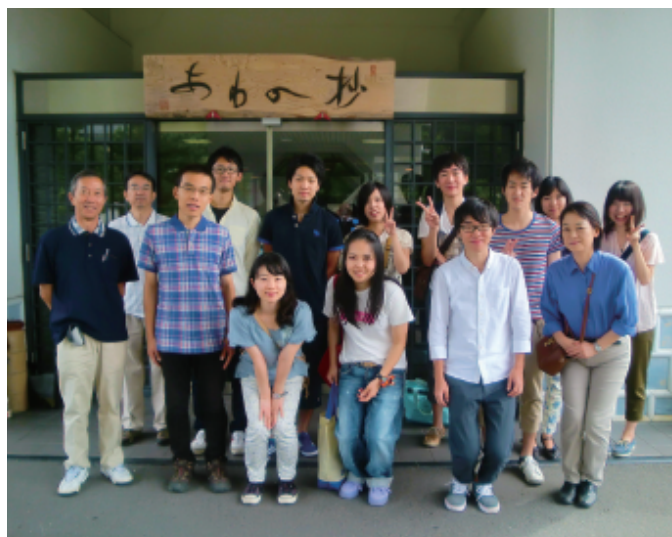
地球の人口増加に伴って植物油脂の需要も急激に増加し、世界での生産量はこの30年間で約4倍（2012年度の統計で約1.6億トン）となっています。特にアブラヤシを原料とするパーム油生産は30年間で約10倍になりダイズ油生産を抜いて世界1位となりましたが、耕地確保のために多くの熱帯雨林が伐採されるという事態を引き起こしています。また、世界的にバイオ燃料生産が増加し、食用との競合・価格高騰といった問題が懸念されています。この研究の目的は、限られた耕地面積で植物油脂収量を上げるための手法を探ることです。油料作物の貯蔵脂質合成に関わる遺伝子は既にいくつか単離されていますが、その中から活性の優れたものを探しだし、組み合わせて植物に導入することにより、各遺伝子の機能解析を行います。最終的には、その結果を油料作物

の遺伝子組換えによる品種改良に応用することを目標としています。

◆光合成能力の改良に関する研究

作物の生産性と光合成能力には相関があることは昔からわかっています。しかし、光合成は非常に複雑な反応であり、どのステップを改良すれば光合成能力の向上につながるのかを判断することが難しいことから、これまでに光合成能力の大幅な改良に成功した例はありません。そこで私たちはCO₂濃度と光合成の関係に着目しています。光合成速度の制限要因はCO₂濃度によって変わります。CO₂濃度が低い場合は、CO₂を最初に有機物に変換する炭素同化酵素（ルビスコと名付けられている酵素で、触媒速度が非常に遅いため葉のタンパク質の約30%を占めている）やCO₂の葉内での輸送効率が制限となり、CO₂濃度が高くなると光エネルギーを化学エネルギーに変換する光化学系やデンプン合成効率が制限となります。現在、CO₂濃度は上昇しており、今後もそれを食い止めることは難しいと考えられます。であれば今後の高CO₂条件での光合成能力を改良することが将来的な食料の増産、安定供給に役立つはずであると考えています。具体的には、遺伝子組換え技術を使ってデンプン合成能力の強化を図る研究やルビスコの活性と量を高CO₂条件に最適化させる研究を進めています。

本研究室では3教員がそれぞれ異なるテーマで研究設定をしているのですが、学生同士の連携を強めるために？田畑での共同作業だけでなく、コンパやゼミ旅行などを盛んに企画して和気藹々の繋がりが持っていると自負しております。



徳島県大歩危へのゼミ旅行(平成26年9月撮影)

生命機能科学専攻応用生命化学講座 生物化学教育研究分野

教授 山形 裕士 (神 C5回生物化学)
准教授 金丸 研吾
准教授 宇野 知秀

六篠会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。私は神戸大学農学部とほぼ同じ年齢です。農学部は県立農大として誕生以来成長の一途をたどっていますが、私の方は定年までわずかとなりました。以前にも本欄に研究室の変遷やスタッフの紹介文を載せていただきましたので、今回は気ままに私の研究を回想させていただきます。

私は「植物における遺伝子発現調節機構」を研究しています。遺伝子発現調節には二種類あり、一つは体内のプログラムに基づきホルモンなどにより調節される、成長時期や組織・細胞特異的な発現機構です。もう一つは、光や温度などの環境刺激や様々なストレスに応答した調節機構です。私は前者については果実の酵素の発現調節機構、後者については光で誘導される遺伝子を対象に紫外線、cGMP、一酸化窒素等による調節機構を調べています。その他エチレン合成酵素や三量体G蛋白質の生化学的研究も行っていますが、今回は果実特異的遺伝子発現機構の研究を中心に紹介させていただきます。

1987年に大阪医科大学助手から母校に助手として採用され、最初に岩崎照雄教授から勧められたのがメロンのククミンというプロテアーゼの研究でした。当時は相菌泰生先生が着任され研究室の転換期にありました。それまでは吉川三吉先生、岩崎先生、故清原利文先生らにより植物のプロテアーゼインヒビターの構造と機能の研究が行われていましたが、インヒビターにより阻害される植物起源のプロテアーゼは不明でした。その候補として当時植物では珍しかったセリンプロテアーゼであるククミンをメロンの未熟果実から精製し特性を調べました。ククミンはアルカリや熱に大変強い変わった酵素でした。続いてククミンcDNAをクローニングし、植物セリンプロテアーゼとしては最初にアミノ酸配列を報告しました。新型プロテアーゼの発見を期待したのですが、構造は枯草菌の酵素に似ていました。一方、ククミンは果汁への分泌に必要なシグナル配列とプロ配列を含む前駆体として合成されますが、植物酵素のプロ配列の機能はそれまで不明でした。院生が大腸菌で発現したククミンのプロ配列がククミン活性を強く阻害し、プロ配列に細胞内でのククミン前駆体を不活性化状態に保つ役割があることがわかりました。昔なかなか見つからなかった、植物プロテアーゼを阻害するインヒビターが、何とプロテアーゼの分子内にあったわけです。

私の京大大学院での博士論文は「イネ種子貯蔵蛋白質の生合成・蓄積機構」でしたので、毎年、学生とメロンを圃場で栽培しているうちに、ククミンがどうして果実の特定の組織だけで合成され果汁中に大量に分泌・蓄積するのかということに興味を持ち、酵素化学的研究から少しずつ脱線していきました。ある遺伝子がいつどこで発現するのかという運命は、たいていその遺伝子のプロモーターに書き込まれています。調べた結果、プロモーター中のわずかに20塩基の配列がククミンを果実の特定の細胞で決まった時期に発現させるのに必要且つ十分な配列(エンハンサー)であることをつきとめました。すぐに、このエンハンサーの後ろにヒトのインターフェロンのような有用遺伝子を繋いで植物に導入すれば、果汁中に有用タンパク質を

多量に蓄積できるのではないかと思いつきました。分子農業と呼ばれるこの技術に学生は興味を持ってくれ多くの遺伝子組換えトマトを作成しましたが、異種有用蛋白質を大量蓄積するトマトの作出にはなお時間がかかりそうです。一方、エンハンサー配列に結合する転写因子を同定し、転写因子自体の果実特異的発現、転写因子の自己発現調節や植物ホルモンによる調節等が示唆されました。ククミン関連の研究は諸先生と多くの学生さん達の協力を得て幅広く展開しJ. Biol. Chem. 3報を含むいくつかの論文になりました。RIを駆使して行ったこれらの研究は神大農学部独自のユニークな成果と自負しています。

私は助教時代NYのロックフェラー大学植物分子生物学研究室(Nam-Hai Chua教授)に留学し光シグナル伝達について研究する機会を得ました。Chua研は常時ポストグが20人ほどいる、世界をリードする研究室でした。フィトクロームの光シグナル伝達に関する我々の研究成果もNatureのArticleに投稿したのですが、ReviewerやEditorらとの激しい論争になり、結局Cellに投稿して掲載されました。そのような経緯を目の当たりにし、毎日朝から深夜まで実験に明け暮れてエキサイティングな研究生活を送ることができたのは幸運でした。その影響で帰国後、高い目標を掲げ学生さん達には困難な実験を強いて随分苦勞をかけたかと反省していますが、大発見を目指すレベルの高い研究の大切さも知ってもらえたのではないかと考えています。

ライフサイエンスは日進月歩で発展し5年前の発見が陳腐化することも珍しくありません。上述のククミンに関する研究は一酵素を材料としたいわば古典的な研究ですが、多くの学生さん達と一緒に目標に向かって研究に没頭できたことは幸せでした。これまでにお世話になった多くの先生方、研究に携わっていただいたすべての卒業生の皆様に心から感謝申し上げます。

現在、生物化学研究室では、金丸研吾准教授、宇野知秀准教授らと協力しながらも各々独立した研究グループを形成して教育・研究にあたっています。今後も生物化学研究室は農学部にあっても生命の神秘の謎解きを目指す研究室であって欲しいと思います。その基礎研究の成果を農業に役立てることができれば申し分ありません。研究にはゴールがありません。恩師・岩崎先生は最終講義を山頭火の「分け入っても分け入っても青い山」という言葉で締め括られましたが、私も今それを実感しています。



生命機能科学専攻環境生物学講座 土壌学教育研究分野

教 授 藤嶽 暢英
助 教 鈴木 武志
特命助教 加藤 拓

兵庫農科大学・神戸大学農学部の流れの中で、最も古くからある研究室であり、名称も一貫して変わっていない唯一の研究室が我々の土壌学研究室です。従って、六條会会員の皆様に土壌学研究室の歴史をご説明するまでもありませんので、現在の研究室の様子と諸先輩の期待?を担って看板を背負っております教員それぞれの雑感を紹介させていただきます。

◆土壌学研究室の構成

2014年10月現在はドクターコース3年生1名と1年生2名、マスターコース2年生2名と1年生5名、4年生7名、3年生5名の22名の学生で構成されています。ドクターコースは3名とも試験場や企業の社会人ドクターです。マスターコース1年生には中国とパプアニューギニアからの留学生がいます。また、学生22名中、男子は6名と女性優占の状態です。4年生以上を研究テーマ別に見ますと土壌化学・生態関連が5名、堆肥など農業関連が7名、水環境関連が5名となっています。農環境生物学講座は分子生物学的手法を利用する研究室がほとんどですが、土壌学では化学分析を主体に研究を行っています。

◆藤嶽 暢英

学生時代から一貫して土壌有機物の構造・機能・動態について研究してきました。現在はスコットランド、フィンランド、北極圏、シベリアなどの高緯度地域やチベット、岐阜高山や信州などの亜高山帯と呼ばれる涼しい?フィールドと亜熱帯地域(沖縄・石垣島)の暑いフィールドを往来しながら、水汲みや穴掘りをして学生とともに汗を流しています。これは、気候変動・地球温暖化の影響による炭素の動態を探索することが目的で、いろんな地域に行ってみたいという訳ではありません??。それ以外にも放射性元素や環境汚染物質と土壌・陸水有機物との相互作用分析、堆肥の評価分析、琵琶湖の水質評価分析などを手がけています。これらの研究は、鈴木・加藤両先生はもとより、国内外の様々な所属機関の共同研究者や多数の研究室出身の研究者らに助けられながら実施しています。研究者として残された13年で何をなすべきか、というのが目の下の悩みであり、楽しみでもあります。資金(研究費)集めにはほとんど苦労しています。

◆鈴木 武志

神戸大学での学生時代は土壌中の有機化学物質に関する研究に従事しましたが、神戸大学に赴任以降は伐採木、石炭灰、下水汚泥などの廃棄物の土壌肥料学的な有効利用法の開発、評価に関する研究に携わってきました。また、カナダのレイクヘッド大学に1年、ドイツのホーヘンハイム大学に3ヶ月半の研究留学をさせていただき、カナダの森林植生と土壌に関する研究やドイツの農耕地土壌と地球温暖化に関する研究もさせていただきました。現在では神戸大学農学部の前身の兵庫農科大学の設置されていた篠山市での実習や丹波黒豆の研究にも携わっています。これらの研究は学内外の共同研究者の協力だけではなく、学生時代からお世話になっている土壌学研究室の先生方のご教授によるものと思っております。今後とも引き続き神戸大学農学部で学んだことを生かし、本学し

かできない教育・研究に精進していこうと思っています。

◆加藤 拓

2012年8月に帯広畜産大学から神戸大学に赴任してきました。大畑作酪農地帯から大都会に生活環境が変化したため、順応するのに時間がかかりましたが、今ではすっかり馴染んでいるつもりです。学生時代は森林土壌を対象に土壌生成に関する研究を行っていましたが、卒業後は主に農耕地を対象に持続的生産環境の管理・保全に資する基礎研究を行ってきました。神戸大学に赴任後は学生の要望に応える形で、森林地・農耕地を問わずに研究フィールドを拡大しています。自身の目標としては、現場のニーズを拾いながら、きちんと科学的な成果を挙げ続けていくことです。学生には良き社会人となれるように、学生時代を謳歌してもらいたいと望んでいます。OB・OGの皆様には、時々研究室に足を運んで頂き、現役生に叱咤激励をお願いいたします。

◆学生諸氏(木田 森丸:博士前期課程2年)

当コースでは3年生後期から研究室に配属されますので、もう丸3年この研究室に席を置いていることになります。神戸大学土壌学研究室は、土壌の世界では「神大土壌研ここにあり」と言われるような伝統と実績のある研究室です。私もその名前に恥じぬよう、そしてその名前をより知らしめるべく、実験と勉学と論文執筆(と飲み会)に明け暮れる毎日を過ごしています。学部時代は琵琶湖を、院では石垣島のマングローブ林内河川を対象フィールドとして、それらの水環境中の有機物の動態を研究しています。総合学問ですので扱うものが複雑系で一筋縄ではいきませんが、知的好奇心(と少しの惰性)に引かれながら、地道に歩みを進めております。

◆学生諸氏(山野 智子:学部4年)

私は高緯度地域であるスコットランドの河川水について、研究を行っています。今年の春には、藤嶽先生や研究室の先輩と共に、約3週間スコットランドへ調査に行かせていただき、分析する試料のサンプリングを行いました。スコットランドの河川は、日本の河川と異なり茶色い色をしています。しかし、汚れて濁っているわけではなく透き通った茶色い水なのです。この事は調査に行く前にも聞いていた話なのですが、とても透明な、しかし茶色く色の付いた川が流れているのを実際に自分の目で見た時は、とても驚きましたし、この時のことは今でもはっきりと覚えています。今は、神戸大学でサンプリングした試料の分析を行っています。貴重な経験をさせていただいて、自分でも取ってきたサンプルで愛着もあるので、しっかり分析していこうと思います。



六篠賞

六篠学術奨励賞を受賞して

生命機能科学専攻農環境生物学講座
細胞機能制御学教育研究分野

古谷 朋之

この度は、このような素晴らしい賞をいただき大変ありがとうございます。また、受賞できたのもこれまで支えていただいた多くの皆様、特に研究室の先生方、先輩、同期、後輩のおかげです。ありがとうございます。

研究室生活を振り返ったとき、配属当初はこれほど長く同じ研究室で研究するとは考えていなかったことを思い出しました。3年次後期に研究室が決定し、「植物の環境応答」に関わるテーマを始めることになりました。研究は、なかなか思った様に行かないことも多かったのですが、先生方に多くのアドバイスをいただきながら進めていくうちに、植物（生物）の未知なる部

分を紐解いていく研究に面白さを感じ、次第に研究者を目指したいと思う様になりました。そして、博士課程修了まで6年半の長い間多くの方に支えていただきながら充実した研究生生活を過ごすことができました。

私は今、東京大学大学院理学系研究科で特任研究員として「葉の形態形成」に関する研究をしています。神戸大学で学んだスキルを生かしつつ、新たな視点や技術を身につけ、この新しいテーマに挑んでいます。これからも研究に励み六篠学術奨励賞にふさわしい研究者になることで、皆様への感謝を表していきたいと思います。

六篠学術奨励賞を受賞して

生命機能科学専攻応用生命化学講座
食品・栄養化学教育研究分野

雉子谷 百合江

このような賞を頂き、正直言って大変恐縮しております。「なぜ私が?」というのが今に至っても正直な気持ちです。大学院時代の最大の収穫は、大変仲間に恵まれたことです。私は、修士課程から神戸大学大学院農学研究科に進学致しました。私は6年制薬学部を卒業し進学したので年下の方がほとんどでした。最初は、なじめるだろうかと大変不安でしたが、研究室の仲間たちと毎日を過ごしているうちにその不安は完全に消えました。

そんな仲間に囲まれていたからこそ実験について、悩んでいることを互いに言い合いアドバイスをし合える環境を築けていたと思います。お互いの実験の状態をあれほどメンバー間で把握しあって真剣に語り合えたことは今の私にとっても誇りです。

そんな仲間に対して、先輩として情けなくもいろいろ気苦労や迷惑をかけてしまいました。しかし、最後の最後までどんなに

つらいことがあった時でも頑張れたのは安心して何でも言い合える仲間がいたからです。

この場を借りて、感謝の気持ちを述べたいと思います。本当にありがとうございました。

今、私は製薬企業で研究者として開発段階の薬を分析する仕事をしています。この仕事で一番大事なことは、上司や先輩との情報共有であります。情報を共有することにより、状況が分かるだけでなく問題点も明らかになります。そして、次のステップへの改善がスムーズになり開発がすすんでいく要因になります。まさに、私が大学院で仲間を通して習得できた話し合える力が強みになります。これからも、人の命を支えられる安全でかつ高効果な薬を開発できる研究者になるべく毎日頑張りたいと思います。

六篠学生賞を受賞して

食料環境システム学科
生産環境工学コース

三木 太貴

このような素晴らしい賞を頂き、感謝申し上げます。私は学部時代に老朽化した農業用管路の合理的改修工法に関する研究をしていました。管路更生工法と言われるもので、老朽化して本来の機能を失った管路の内側に新しい管を挿入・施工することで、管路の利用可能年数を低コストで延ばすことができるというものです。この工法により二層構造となった管路の力学的安定性を検討するため、模型実験及び解析を実施しました。このように実際の現場が必要としていることを研究できたことは、充実感にあふれるものでした。また、先輩と共に実験

を行う中で、多くのことを学び、個人で進める研究で思うようにいかない時、先生、先輩に多くの支援を頂きました。このように多くの方々の支えの中で、研究活動を行えたことは、私自身の成長につながり、非常に幸せなことであったと思います。

現在は神戸大学大学院農学研究科に進学し、学部時代に実施していた研究を引き続き行っております。まだまだ私自身至らないことが多く、日々精進していかねばならないと考えております。最後になりましたが、いつも支えてくれた先生、先輩、友人、後輩に感謝申し上げます。

六籐学生賞を受賞して

資源生命科学科
応用動物学コース
高木 理沙

この度は、このような名誉ある賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。思い返せば、高校卒業後、大学進学を目標としていた私は、漠然と自分が比較的興味を持っていた動物関係の勉強がしたいと思って農学部を選んだため、明確な目標がない状態でした。そこで大学入学後は、自分が本当にやりたいと心から思えることを見つけるために少しでも興味を持った講義には出席し、全力で取り組むようにしました。減多に休むことなく、常に一番前の席に座り、熱心に耳を傾け続けました。

その結果、微生物学という自分が今まで知らなかった、かつ心からやりたいと思える学問分野と出会えた上、

学科以外の友人もできました。そして大学卒業時には、今回のような素晴らしい賞を頂けることとなりました。担当教員に受賞の知らせを聞いた時の嬉しさは未だに忘れることが出来ません。こんな嬉しい副産物も得ることができ、非常に満足した大学生活だったと実感しています。これからも有意義な日々を送るべく、好奇心を持って様々なことに果敢にチャレンジしていきたいと思えます。

最後に、今まで私を支えて下さった全ての方々へ心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

ちょっと一休み

—兵庫農科大学発祥之地—

毎年「兵庫農科大学発祥之地」の記念碑を管理していただいている兵庫県篠山土地改良事務所にお礼に行きます。周辺は、昔の面影もなくなっていますが、少し昔を思い出してみたいはいかがでしょうか。



- ① 旧兵庫農科大学正門付近
- ② 記念碑正面
- ③ 記念碑背面
- ④ 兵庫県篠山総合庁舎

<所在地>
〒669-2341 篠山市郡家451-2

佐藤孝先生 100 歳

百歳の賀を迎えられた佐藤孝先生を祝す!

神戸大学 名誉教授 高山 敏弘
資源生命科学専攻応用植物学講座熱帯有用植物学教育研究分野 教授 伊藤 一幸



佐藤先生:2014年1月7日にご自宅で撮影

佐藤先生、お元気で、百歳というおめでたい日を迎えられましたこと、本当にうれしく、心からお祝い申し上げます。昭和32年に、カンボジアの調査に同行させていただきまされたときには、高山は、初めての国外それも南方という未知の国で、カルチャーショックを受けていたのに、先生は、いかにも水を得た魚のように、嬉戯として調査に従事されて、持ち前の責任感で立派な成果を上げられました。戦後のこの分野での海外学術調査としては、京都大学の木原先生方の小麦の調査に次いだものだと聞いています。蒐集した資料は、当時としては珍しく、稲をはじめとする農作物、果物、植物、昆虫、魚類、土壌など、学内は勿論、学外からの研究者の研究材料になったものも多いようでした。また、現地の物価の動向などは、資料の少なかった外務省で参考にされたとも聞いています。これらすべて、熱帯農学に御造詣の深い佐藤先生のご努力の賜物です。当時から、タフでありながら、酒煙草をたしなむことなく撰生に努めてこられたことが、今日のおめでたい日をお迎えになる下地となったのだらうと思います。これからも、ますますお元気で長寿を楽しめますことを、心からお祈りしています。

平成25年12月に王子六篠会長から三木市の「自由が丘ニュース」という地域紙をいただきました。そこには白寿をお祝いする佐藤先生の記事がありました。伊藤は急いで関係者を募って、今年1月7日に白寿のお祝いに出かけました。佐藤先生にお世話になった人達もすでに高齢になり、結局訪問できたのは六篠会副会長の武正興氏と伊藤の二人だけでした。

佐藤先生は今年4月11日に満百歳になられました。ご長寿を皆様と共に祝い申し上げ、私たちもご長寿にあやかりたいと存じます。耳が遠いだけで、いたってお元気であり、奥様を3年前に亡くされてからはお一人で生活されている様子でした。千葉県に嫁がれた娘さんがご心配なさって、時々はお見えになります。裏庭の畑が急傾斜で、最近は難儀しているとおっしゃっています。

伊藤は神戸に赴任してからは時々、三木市のお宅をお訪ねし、今でも熱帯植物の学名がポンポンと飛び出す先生のお話に驚嘆しておりました。そして、佐藤先生のカンボジア調査などの1960年代後半の熱帯農業を撮影された貴重なスライドを多数いただき、電子化しました。このスライドは長いあいだ銀行の貸金庫に入っていたとお伺いしましたが、長い年月のあいだに色はかなりあせておりました。しかし、象が運搬する木材の写真や足踏み灌漑など圧巻なものも多数あります。また、カンボジア学術調査報告書第1集、第2集を神戸大学図書館で全ページ電子化させていただきました。スライドを含めてこれらを共用できるようにしたいと考えております。

なお、これを読まれて、私も佐藤先生にお目にかかろうとか、お祝いをしようというのはお止めください。佐藤先生は耳が遠い

ので、慣れない人に会うのは本当に辛いとおっしゃっています。どうか静かに見守ってあげていただきたく存じます。これがご本人やご家族の方々からのご希望です。

最後になりましたが、六篠会として、先生のますますのご健康をお祈り申し上げます。



農学部長室にて 当時の中村千春農学研究科長と



2008年5月13日 農学部熱植温室にて



佐藤先生と伊藤一幸(2014.1.7)



ひょうごの食研究会会長として活躍されている高山敏弘先生(2014.10.平城宮跡にて)

代議員總會報告

平成26年7月5日（土）に神戸市灘区「六甲苑」にて代議員總會を開催し、役員及び代議員合わせて35名の参加のもと平成25年度庶務報告及び決算報告、26年度事業計画及び予算案についてご協議いただき全案件についてご承認いただきました。

また、総会に先立ち永年理事として大きな功績を残されました菅原通直理事（名簿）の退任に際し感謝状を贈呈いたしました。



菅原 通直 理事(名簿)



総会風景

平成25年度庶務報告

平成25度の一般事業として入学者記念品贈呈、会費納入促進、会報発行、各支部活動・学友会・KUC援助、農学部援助、六甲山マラソン大会援助、手提げ袋贈呈、卒業祝賀会援助、慶弔関連などを行いました。また、学術振興事業として生命機能科学専攻主催の学術講演6件、資源生命科学

学専攻1件、大学院生の海外渡航3件に対して援助を行い、優秀な業績を残した学生に六條賞の授与を行いました。平成26年度についても、例年同様、一般事業および学術振興事業を維持していくことが代議員総会で承認されましたので、それに基づき現在活動しているところです。

役員

会長	王子 善清	(兵C 12回)	理事(会報)	松山 稔	(神P 14回)
副会長(会長職務代行)	辻 莊一	(兵Z 12回)	理事(庶務)	乾 秀之	(神P 25回)
副会長(学友会幹事)	松井 功	(兵T 16回)	理事(会計)	深山 浩	(神A 24回)
副会長(KUC・学友会)	中村 直彦	(神Z 1回)	理事(KUC)	坂井 永利	(兵A 12回)
副会長(KUC/学友会編集委員)	石賀 暢一	(神C 1回)	理事(名簿)	吉倉惇一郎	(兵C 16回)
副会長(学友会幹事/会報委員長)	武 正興	(神C 3回)	理事(ホームカミングデイ)	中西 三生	(兵Z 17回)
副会長(会報)	渋谷 一郎	(神C 8回)	監事	永吉 照人	(兵A 13回)
副会長(会報)	三浦 恒夫	(神A 9回)	監事	外山 眞里	(神C 8回)
副会長(名簿)	水野 雅史	(神C 15回)	顧問	北浦 義久	(兵A 6回)
理事(代表)	南森 隆司	(神C 6回)	顧問	能宗 康夫	(兵C 2回)
理事(会報)	大西 成己	(鶴 3回)	顧問	西川 欣一	(兵A 1回)
理事(ホームカミングデイ)	山本 博昭	(兵A 12回)	顧問	田中 平義	(兵C 1回)
理事(名簿)	宮島 康彦	(神P 23回)	顧問	新家 龍	(兵C 5回)

代議員

井上健一郎	(神C 25回)	住田 昭男	(兵Z 10回)
岩出 郁美	(博後 H8)	得丸 哲士	(神Z 2回)
宇野 雄一	(神T 29回)	鳥居 明英	(神BE 33回)
岡田 嘉夫	(兵A 14回)	中辻 優香	(兵Z 16回)
置塩 康之	(神AE 37回)	西尾 司	(博後 H14)
小田 哲也	(兵A 9回)	橋本 堂史	(神C 1回)
小田垣博三	(神P 17回)	長谷川明彦	(兵C 16回) 東海支部長
門岡 織江	(兵C 16回) 関東支部長	長谷川信弘	(兵C 16回)
加納 健三	(神Z 27回)	花本 秀生	(兵Z 13回) 広島支部長
河野 健児	(神A 26回)	番匠 宏行	(神BC 31回)
川端 忠則	(神PR 34回)	福田伊津子	(兵C 8回)
棕本久美子	(鶴 5回)	前田 泰秀	(神C 17回)
財田 福雄	(兵A 9回)	松永 将義	(神A 3回)
酒井 修	(鶴 3回)	松本 幹夫	(神P 22回)
阪上 昭宏	(神AS 31回)	八木 剛	(神P 10回)
笹崎 晋史	(神C 23回)	矢代 学	
鈴木 武志			

●学術講演会援助

専攻・教育研究分野	開催日	講演題目	参加数
資源生命科学専攻 応用動物学講座	2013/06/21	東南アジア型HIV-1の免疫学的性状解析 (神戸大学大学院 保健学研究科 国際保健学 感染症対策分野 亀岡正典先生)	20名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2013/09/09	Novel aspects of diacylglycerol signaling (ペンシルベニア大学 Dr.Marcelo Kazanietz)	30名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2013/09/09	Diacylglycerol kinase alpha and the control of tumor immune invasion (スペイン最高科学会議 Dr.Isabel Merida)	30名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2013/11/05	Nitric Oxide and Nitrous Oxide Metabolism in Rhizobia and Control of the Emission of These Greenhouse Gases from Root Nodules (Estación Experimental del Zaidin,CSIC,Granada, SPAIN. Dr. Maria Jesus Delgado)	23名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2013/11/21	ストリゴラクトンの生理作用と生合成 (東洋大学生命科学部応用生物化学科 梅原三貴久准教授)	45名
生命機能科学専攻 農環境生物学講座	2013/12/02	次世代シーケンサを活用した研究事例とそれを支える公共ツール・データベース (情報・システム研究機構 ライフサイエンス統合データベースセンター 大田達郎)	28名
生命機能科学専攻 応用生命化学講座	2014/01/22	天然物化学から天然物ケミカルバイオロジーへ：植物及び動物配糖体リガンドを例として (東北大学 大学院理学研究科 化学専攻 上田実教授)	20名

●海外渡航援助

Orn Chhourn	応用植物学講座・植物育種学分野 7th International Rice Genetics Symposium フィリピン・マニラ市、2013.11.05～2013.11.08
鳴神 学	応用植物学講座・園芸生産開発学分野 International Strawberry Congress ベルギー・アントワープ、2013.09.04～2013.09.06
岩見 志歩	応用生命化学講座 食品・栄養化学分野 IUNS 20th International Congress of Nutrition スペイン・グラナダ、2013.09.15～2013.09.20

●六篠賞

学術奨励賞 (15名、 内博士2名、 修士13名)	Evans Atuti Atera	応用植物学講座博士課程	古谷 朋之	農環境生物学講座博士課程
	園田 悠介	生産環境工学講座	小湊 貴子	生産環境工学講座
	桑原 光樹	食料環境経済学講座	牧田 美穂	応用動物学講座
	表原 拓也	応用動物学講座	田中 美涼	応用植物学講座
	河原 蒔子	応用植物学講座	雉子谷百合江	応用生命科学講座
	寺川あやこ	応用生命科学講座	田島慎太郎	応用生命科学講座
	上森 喬大	農環境生物学講座	安福 拓斗	農環境生物学講座
	村田 暢明	農環境生物学講座		

●六條賞

学 生 賞 (11名)	三木 太貴	生産環境工学コース	大澤真奈美	生産環境工学コース
	土肥 舞子	食料環境経済学コース	梅村ゆりあ	応用動物学コース
	高木 理沙	応用動物学コース	爾見 優子	応用植物学コース
	須藤 暁史	応用植物学コース	宮本 岳	応用生命化学コース
	松田 達也	応用生命化学コース	馬淵 智仁	環境生物学コース
	村井 俊子	環境生物学コース		

※業績賞・若手賞等は該当者がありませんでした。

●25年度事業報告 一般事業

項 目	時期	内 容
入学者記念品贈呈 1) ロゴ入り USBメモリー 2) 六十周年記念 DVD 3) 六條会報 No.27	4月	入学者327名 (学部：167名、修士：143名、博士：17名) 入会者152名 (学部：137名、修士：10名、博士：5名) 入会率 (学部：82%、修士：74%、博士：76%)
活動援助	KUC	運営委員会(4回) 講演会(3回)及び行事(2回) 定例講演会「日本酒 四方山話」 定例講演会「エベレストに懸けた夢」 定例講演会「IT専門職大学院大学の 新設に携わって」 六甲台矢田たつお励ます会 神戸大学学長を励ます会

●25年度事業報告 一般事業

項 目	時期	内 容
支 部 総 会	県六條会	11月 支部総会11月9日 (王子会長、北浦顧問、宮野研究科長出席)
	広島	5月 支部総会5月11日(王子会長出席)
	関東	10月 支部総会10月4日(王子会長出席)
	東海	11月 支部総会11月24日(伊藤代表理事出席)
	KOBE六條会	11月 支部総会11月21日 (王子会長、宮野研究科長出席)
六甲祭援助	11月	11月9日・10日開催
農学部研究科支援	10月	施設使用料及び運営費
会報発行	12月	7,970部(7,478部発送)
六甲山マラソン大会	12月	12月21日開催
卒業式用手提げ袋贈呈	3月	卒業生161名(内1名は9月卒業)
卒業記念パーティ援助	3月	修了生138名(内10名は9月修了)

■慶弔関連

以下の方々をご逝去なされました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

稲川 千秋 (兵C 4回)	國利 功 (兵A 5回)
岡本 吉司 (兵C13回)	長井(横山)好明 (鶴 2回)
常山 英朗 (神A 9回)	生島 紘一 (兵C11回)
太治(石田)司郎 (兵Z 6回)	春名 八郎 (鶴 4回)
山田 克彦 (兵A 6回)	久代 憲 (神T14回)
本郷 義雄 (兵A10回)	津田 佳久弥 (兵A 7回)
松中 昭一	小田垣 昭治 (兵Z12回)

(順不同・敬称略)

■退職及び着任教員

退職および着任された先生方をお知らせします。(敬称略)

●退職された先生

中村 千春	理事 (H25.3.31)
伊庭 治彦	教授 (H26.3.31)

●着任された先生

万谷 洋平	特命助教 (H25.10.1)
石田 章 准	教授 (H26.10.1)

平成25年度事業報告・決算

平成25年度一般会計決算

取 入	10,381,066円
支 出	8,936,534円
残 高	1,444,532円

■収入の部

項 目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備 考
入会金	7,000,000	6,080,000	-920,000	40,000円×152名
雑収入	1,000	1,077	77	普通預金口座利息
前年度からの繰越金	4,299,989	4,299,989	0	
合 計	11,300,989	10,381,066	-919,923	

■支出の部

項 目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備 考
農学部援助費	550,000	550,000	0	構内整備等
一般事業費				
会報発行費	1,600,000	1,378,340	-221,660	年一回(約7,800部)
各種活動援助費	700,000	420,000	-280,000	支部活動・学生活動支援
入学記念祝賀費	500,000	171,000	-329,000	記念品(USB×モリ)
卒業記念祝賀費	350,000	300,000	-50,000	祝賀会援助
卒業生名簿等管理費	100,000	80,250	-19,750	
代議員総会経費	250,000	155,465	-94,535	代議員総会経費
一般事務費	1,000,000	691,923	-308,077	事務アルバイト代、郵送料等
会議費	100,000	10,500	-89,500	理事会
旅費	150,000	0	-150,000	
慶弔費	250,000	87,736	-162,264	電報
交際費	230,000	0	-230,000	
褒賞費	100,000	90,000	-10,000	顧問表彰
役員活動費	1,000,000	891,320	-108,680	H24、H25理事活動費
神戸大学学友会費	120,000	110,000	-10,000	年会費等
繰り出し金	4,000,000	4,000,000	0	六條会基金へ繰り出し
予備費	300,989	0	-300,989	
支出合計	11,300,989	8,936,534	-2,364,455	
次年度への繰越金	0	1,444,532	1,444,532	
合 計	11,300,989	10,381,066	-919,923	

平成25年度六條会基金決算

取 入	45,149,559円
支 出	1,290,000円
残 高	43,859,559円

■収入の部

項 目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備 考
前年度からの繰越金	41,141,528	41,141,528	0	
繰入金	4,000,000	4,000,000	0	
雑収入	10,000	8,031	-1,969	預金口座利息
合 計	45,151,528	45,149,559	-1,969	

■支出の部

項 目	予算額(円)	決算額(円)	増減(-:減)	備 考
学術活動援助費	400,000	140,000	-260,000	20,000円×7件
六條賞	1,000,000	870,000	-130,000	副賞
海外渡航援助費	500,000	280,000	-220,000	100,000円×2件、80,000円1件
予備費	100,000	0	-100,000	
支出計	2,000,000	1,290,000	-710,000	
保留金	43,151,528	43,859,559	708,031	
合 計	45,151,528	45,149,559	-1,969	

同窓会の役員をしていただくからお会いする機会が与えられたものと喜んでおります。もともと紙面を工夫して少しでも卒業生の皆様に楽しんでいただけるよう努力いたしますのでご忌憚のないご意見ご提案ご寄稿を期待しております。

(公報担当理事一同)

平成26年度事業計画・予算

平成26年度一般会計予算

■収入の部

項 目	26年度予算(円)	25年度予算(円)	増減(-:減)	備 考
入会金	7,000,000	7,000,000	0	40,000円×約180名
雑収入	1,000	1,000	0	普通預金口座利息
前年度からの繰越金	1,444,532	4,299,989	-2,855,457	
合 計	8,445,532	11,300,989	-2,855,457	

■支出の部

項 目	26年度予算(円)	25年度予算(円)	増減(-:減)	備 考
農学部援助費	550,000	550,000	0	構内整備等
一般事業費				
会報発行費	1,600,000	1,600,000	0	年一回(約8,200部)
各種活動援助費	700,000	700,000	0	支部活動・学生活動支援
入学記念品費	500,000	500,000	0	USB×モリ
卒業記念祝賀費	500,000	350,000	150,000	祝賀会援助、紙袋代
卒業生名簿等管理費	100,000	100,000	0	
代議員総会経費	250,000	250,000	0	
一般事務費	1,000,000	1,000,000	0	事務アルバイト代、郵送料等
会議費	100,000	100,000	0	理事会
旅費	0	150,000	-150,000	近年支出要件なし
慶弔費	250,000	250,000	0	近年退職教員への記念品、電報
交際費	0	230,000	-230,000	近年支出要件なし
褒賞費	100,000	100,000	0	
役員活動費	500,000	1,000,000	-500,000	
神戸大学学友会費	120,000	120,000	0	年会費、編集委員会費等
繰り出し金	2,000,000	4,000,000	-2,000,000	六條会基金へ繰り出し(H24未繰越)
予備費	175,532	300,989	-125,457	
合 計	8,445,532	11,300,989	-2,855,457	

平成26年度六條会基金予算

■収入の部

項 目	26年度予算(円)	25年度予算(円)	増減(-:減)	備 考
前年度からの繰越金	43,859,559	41,141,528	2,718,031	
繰入金	2,000,000	4,000,000	-2,000,000	一般会計からの繰り入れ
雑収入	10,000	10,000	0	大口定期・普通預金利息
合 計	45,869,559	45,151,528	718,031	

■支出の部

項 目	26年度予算(円)	25年度予算(円)	増減(-:減)	備 考
学術活動援助費	400,000	400,000	0	
六條賞	1,000,000	1,000,000	0	
海外渡航援助費	500,000	500,000	0	
予備費	100,000	100,000	0	
支出計	2,000,000	2,000,000	0	
保留金	43,869,559	43,151,528	718,031	
合 計	45,869,559	45,151,528	718,031	

同窓会事務局の案内

会員の皆様からの本会へのご連絡をFAX、e-mailで受付けております。住所や連絡先の変更、また本会に対するご要望、ご意見などお待ちしております。なおご連絡の際には、所属学科、卒業年次を併せてお伝え頂くようお願い申し上げます。

- FAX:078-881-2752
- e-mail:rikusoukai@yahoo.co.jp
- ホームページ
<http://home.kobe-u.com/rikusou/>

編集後記

今年も残すところ少し。年賀も兼ね六條会会報一九号をお送りいたします。

今、私たち母校は宮野農学研究科長の「農学部近況報告」にありますとおり、大きな発展を遂げています。同窓生として大いに誇りに思います。

王子会長の挨拶にありますとおり、同窓会として応援を惜しまないところで。

会報を通じて学生時代を思い出すとともに母校に対する愛着心をお持ちいただき同窓会の活動に層のご支援をただいただければ、役員一同この上ない幸せです。

二九号では佐藤孝先生の百歳のお祝いの記事を高山先生と伊藤先生に寄稿していただきました。伊藤先生と今年の一月に同行してお会いいたしました。が本当にお元気で自活しておられるとお聞きし驚くばかりでした。「酒もたばこもやらなかったからな！」と言われて、どきりとする場面もありました。

学生時代に佐藤先生のもと移住地農業研究会に所属し、ブラジル移民船の神戸からの最後の出港を見送ったことなどをお話させていただきました。